



2022
vol.38/39

Association
Japonaise de la
Presse
Sportive



AJPS



Canon

make it possible with canon



そのカメラに境界はない。すべての世界をひとしく鮮やかに
描き出す、異才のフルサイズミラーレス。映像表現の可能性を
どこまでも拡張するために静止画と動画の性能を徹底的に
突き詰めた。EOSの系譜に新たに刻まれる、その名は、EOS R3。
時は待ってくれない。今、その手に。未開の領域が待っている。

映像の新しい時代が走り出す。

EOS R3

写真は進化する。EOS R SYSTEM

NEW



◎キヤノン EOS R3 ホームページ
canon.jp/eos-r3



EOSは2019年9月に累計生産台数1億台^{※1}、交換レンズRF/EFレンズ
シリーズ^{※2}は2021年1月に累計生産本数1億5,000万本を達成しました。
※1 映像制作用シネマカメラを含む。※2 RFレンズ、EFレンズ、EF-Sレンズ、
EF-Mレンズ、EFシネマレンズ、エクステンダーを含む。2021年2月3日時点。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

©Takao Fujita

新体操と私

出会い、
そしてこれから

構成/飯塚健司

新体操の第一人者として、
1984年

ロサンゼルス・オリンピックに出場した。

引退後、新体操から

少し離れている時期を経て

2001年に強化本部長を退任したいま、

2004年からは強化本部長を務めた。

フェアリージャパンを

いかに世界で戦える

ボジションに引き上げ、

いかに東京オリンピックを戦ったのか。

そして強化本部長を退任したいま、

今後に描く絵は

どのようなものなのか――。

人見知り、だけど
踊りは見てほしい

やり始めました。

私が新体操と出会ったのは、高校1年生(鹿児島純心女子高校)のときです。種子島から鹿児島市内の学校に出てきて寮生活をしていましたが、寮から食堂に行く間に体育館があり、扉から中を見たときに新体操というスポーツを初めて見たのです。ああ、なんてきれいなんだろうと体中に電流が走るような感覚でした。

幼いころから踊ることが好きで、テレビで音楽が鳴ると踊り、学芸会にもすべてダンスで参加していました。母親には毎日“行って

きます”的即興ダンスを披露していたぐらい。私はとても人見知りであり目立ちたくないのですが、踊るときだけは見てもらいたい

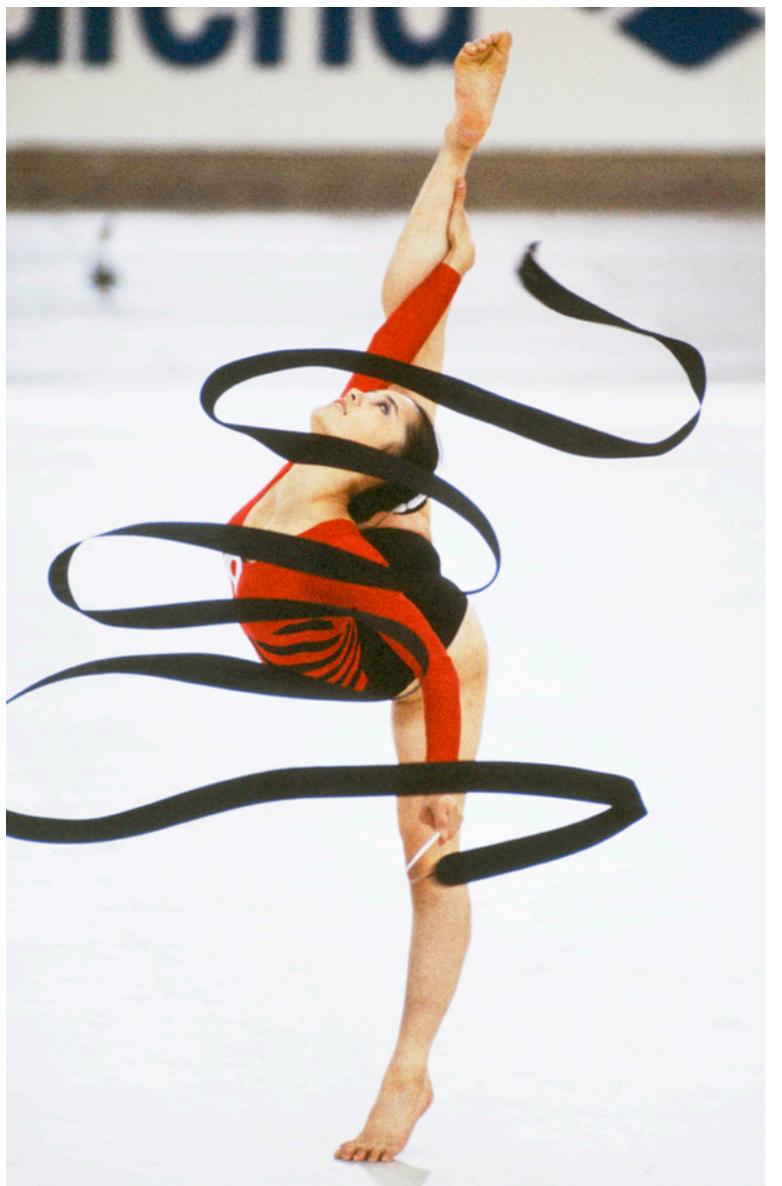
という気持ちがすごくありました。私の家は変わっていて、月に1回演芸会を開き、家族の前で一人ずつ何か出し物を披露していました。父親が、グローバルという言葉こそ使いませんでしたが、日本を代表する何かになつてほしいう思いがあつたよ

うで、演芸会もその一環だったのだと思います。月1でやるので、だんだん人前で失敗するのが怖くなるというか、羞恥心がなくなりつていきましたね。人前に立つことがなんでもなくなる。



2022年1月、代々木にて

©Takao Fujita



©Rimako Takeuchi

現役時代、1981年世界選手権(ミュンヘン)での演技



2007年 フエアリージャパン初期メンバー
©Takao Fujita



2008年 共同生活を送りながらの長期合宿
©Takao Fujita

ロス・オリンピック前、 取材で涙したことも――

入部後は監督の尾辻義先生のもと、9割9分を団体競技(当時は6人で演技)の練習に費やしました。団体が強い学校で、個人競技はそれこそおまけみたいな感じでした。ところが、高3のときに全日本に個人でも出場することになりました。当時は予選なしで出場できました。でも競技は4種目あるのに2種目しか作品がなくて、仕方ないので、カセットテープから先輩の曲を選んで大会に臨みました。現地でちょっと音楽を聞いて、ほぼ即興で演技したんです。そうしたら、ずっと練習していた作品より点数が良かつた。やっぱり、私は即興が好きなんですね。

高校時代は「2位もビリも一緒だ」という環境のなか厳しい練習を続け、団体ではインターハイや国体で連覇していました。進路を考えるときには新体操はもういいかなという感じもあつたし、背も低かったので違う方向へ進もうと考えていました。速記に興味があり、進路指導では専門学校に行くと書いていました。「身長が低いのでムリだと思います」などあると、毎年指導に来てくださっていた東京女子体育大学の加茂佳子先生に「なんで新体操を続けるの?」と言われました。「身長が低いのでムリだと思います。それと答えたたら、「同じぐらいの身長の人でもやっているし、うちはマンツーマンだから来れました。入学して個人競技をやっていましたが、自分が思っていたより新体操の成績は良く、短大の2年が終了すると、大学の3年に編入することになりました。4年後にロス・オリンピック(1984年)がありました。まだ先のことでは正直、私の出番ではないなと思っていたし、うちはマンツーマンだから来れませんでした。」と、彼女は語りました。

入学して個人競技をやっていたのですが、自分が思っていたより新体操の成績は良く、

自分が思っていたより新体操の成績は良く、

スポーツライターとしてもいろいろな競技の方を取材しました。アーバンスポーツなど自分で技を極めていく競技の人たちは、「辞めたいと思ったことは一度もない」とおしゃっていました。世界選手権終了直後に、ロシアから「今後はインナを派遣しない」と連絡がありました。世界選手権終了直後に、ロシアから「今後はインナを派遣しない」と連絡があ

った。そこで、自分たちには何が足りないんだうということを模索するために、世界最高峰のロシアに身をゆだねることにしました。

一度も辞めたいと思ったことがないとは、その時に感じたのはコーチと選手の関係が密であればあるほど、自分自身でやっているのではなく、ときにはコーチにやられた

という感覚に陥ってしまうのではないかなどいうことです。

指導者も選手も一生懸命だからこそ、大きな落とし穴がある。ですから選手のモチベーションをどう保つかを中心に考えていかないとコーチの独り善がりになってしまふと思いましたね。

そんな折、新体操がアテネ・オリンピック（2004年）に向けてオーディションを開催することになり、私もスポーツライターとして見に行きました。すると体操協会の方から「強化副本部長にならないか」と声をかけられました。体操協会からはしばらく離れていたので驚きましたが、そろそろ恩返しがやつたのか、「どうして日本の子たちがこんなに体操的なんだ。もうちょっとバレエ的じゃないといけない」と指摘されました。

その後、2004年春からは強化副本部長を務めることになりました。最初は荷が重過ぎると思いましたが、まわりの方に「他に誰がやるんだね」と言われて、荷が重いから自分がやるしかないと決意しました。

当時の状況を考えると、短期強化が主になつていて中長期的な強化が少なかつたので、日本とロシアでは、始まりが違うと感じましたね。

こうした経験を積み、2012年ロンドン・オリンピックでは団体総合で決勝に進出し、7位になりました。中長期的な強化が実際の成果として表れてきていました。東京オリンピックの開催が決まったのは、その翌年のことでした。

それでも、2016年リオ・オリンピックでは団体総合8位を経て、2017年世界選手権では団体総合3位で表彰台に上がるなど、確実に力をつけていきました。2019年世界選手権では団体総合2位、種目別フープ・クラブで銀メダルを獲得しました。

それでも、この好成績がかえってアダとなつたのです。世界選手権終了直後に、ロシアから「今後はインナを派遣しない」と連絡がありました。世界選手権終了直後に、ロシアから「今後はインナを派遣しない」と連絡があ

りました。世界選手権終了直後に、ロシアから「今後はインナを派遣しない」と連絡があ

歯車がかみ合わなかった 東京オリンピック

2013年9月の夜中、東京オリンピックの開催が決まりました。テレビをつけたまま寝ていて、「トーキョー」と発表されてみんなが喜んでいる瞬間だけフッと目覚め。すぐにテレビをバチッと切りました。うわーと思いましたね。これは大変になるなと思ったんです。

それでも、2016年リオ・オリンピックでは団体総合8位を経て、2017年世界選手権では団体総合3位で表彰台に上がるなど、確実に力をつけていきました。2019年世界選手権では団体総合2位、種目別フープ・クラブで銀メダル、ボールで日本新体操史上初の金メダルを獲得しました。

ところが、この好成績がかえってアダとなつたのです。世界選手権終了直後に、ロシアから「今後はインナを派遣しない」と連絡がありました。世界選手権終了直後に、ロシアから「今後はインナを派遣しない」と連絡があ

さい」と言われて正式メンバーから外されるケースもありました。「曲があるのだから、曲を感じて動かないといけない」。インナさんは最初からそう言つていましたね。

ロシアは土壤が違います。バレエやサーカス、美術館にも連れていくれて、新体操も芸術として捉えていました。チャイルド選手権にロシア人コーチが来てくださったことがあつたんですか、「どうして日本の子たちはこんなに体操的なんだ。もうちょっとバレエ的じゃないといけない」と指摘されました。日本とロシアでは、始まりが違うと感じましたね。

こうした経験を積み、2012年ロンドン・オリンピックでは団体総合で決勝に進出し、7位になりました。中長期的な強化が実際の成果として表れてきていました。東京オリンピックの開催が決まったのは、その翌年のことでした。

それでも、2016年リオ・オリンピックでは団体総合8位を経て、2017年世界選手権では団体総合3位で表彰台に上がるなど、確実に力をつけていきました。2019年世界選手権では団体総合2位、種目別フープ・クラブで銀メダルを獲得しました。

それでも、この好成績がかえってアダとなつたのです。世界選手権終了直後に、ロシアから「今後はインナを派遣しない」と連絡がありました。世界選手権終了直後に、ロシアから「今後はインナを派遣しない」と連絡があ

HONKO NONO

Interview

Hiroko Yamasaki



2019年世界選手権で金メダル獲得
©Rimako Takeuchi

かい」と言われて正式メンバーから外される

ケースもありました。「曲があるのだから、曲を感じて動かないといけない」。インナさんは最初からそう言つていましたね。

ロシアは土壤が違います。バレエやサーカス、美術館にも連れていくれて、新体操も芸術として捉えていました。チャイルド選手権にロシア人コーチが来てくださったことがあつたんですか、「どうして日本の子たちはこんなに体操的なんだ。もうちょっとバレエ的じゃないといけない」と指摘されました。日本とロシアでは、始まりが違うと感じましたね。

こうした経験を積み、2012年ロンドン・オリンピックでは団体総合で決勝に進出し、7位になりました。中長期的な強化が実際の成果として表れてきていました。東京オリンピックの開催が決まったのは、その翌年のことでした。

それでも、2016年リオ・オリンピックでは団体総合8位を経て、2017年世界選手権では団体総合3位で表彰台に上がるなど、確実に力をつけていきました。2019年世界選手権では団体総合2位、種目別フープ・クラブで銀メダルを獲得しました。

それでも、この好成績がかえってアダとなつたのです。世界選手権終了直後に、ロシアから「今後はインナを派遣しない」と連絡がありました。世界選手権終了直後に、ロシアから「今後はインナを派遣しない」と連絡があ

さい」と言われて正式メンバーから外されるケースもありました。「曲があるのだから、曲を感じて動かないといけない」。インナさんは最初からそう言つていましたね。

ロシアは土壤が違います。バレエやサーカス、美術館にも連れていくれて、新体操も芸術として捉えていました。チャイルド選手権にロシア人コーチが来てくださったことがあつたんですか、「どうして日本の子たちはこんなに体操的なんだ。もうちょっとバレエ的じゃないといけない」と指摘されました。日本とロシアでは、始まりが違うと感じましたね。

こうした経験を積み、2012年ロンドン・オリンピックでは団体総合で決勝に進出し、7位になりました。中長期的な強化が実際の成果として表れてきていました。東京オリンピックの開催が決まったのは、その翌年のことでした。

それでも、2016年リオ・オリンピックでは団体総合8位を経て、2017年世界選手権では団体総合3位で表彰台に上がるなど、確実に力をつけていきました。2019年世界選手権では団体総合2位、種目別フープ・クラブで銀メダルを獲得しました。

それでも、この好成績がかえってアダとなつたのです。世界選手権終了直後に、ロシアから「今後はインナを派遣しない」と連絡がありました。世界選手権終了直後に、ロシアから「今後はインナを派遣しない」と連絡があ

HONKO NONO

Interview

Hiroko Yamasaki

HONKO NONO

輝きは続く。
終わりなき
未来のために。

世界の舞台で輝くために、

たくさんの涙、痛み、

葛藤を乗り越えてきただろう。

新体操日本代表・フェアリー ジャパン POLA。

その真実は、彼女たちにしかわからない。

互いを想い、高め合い、

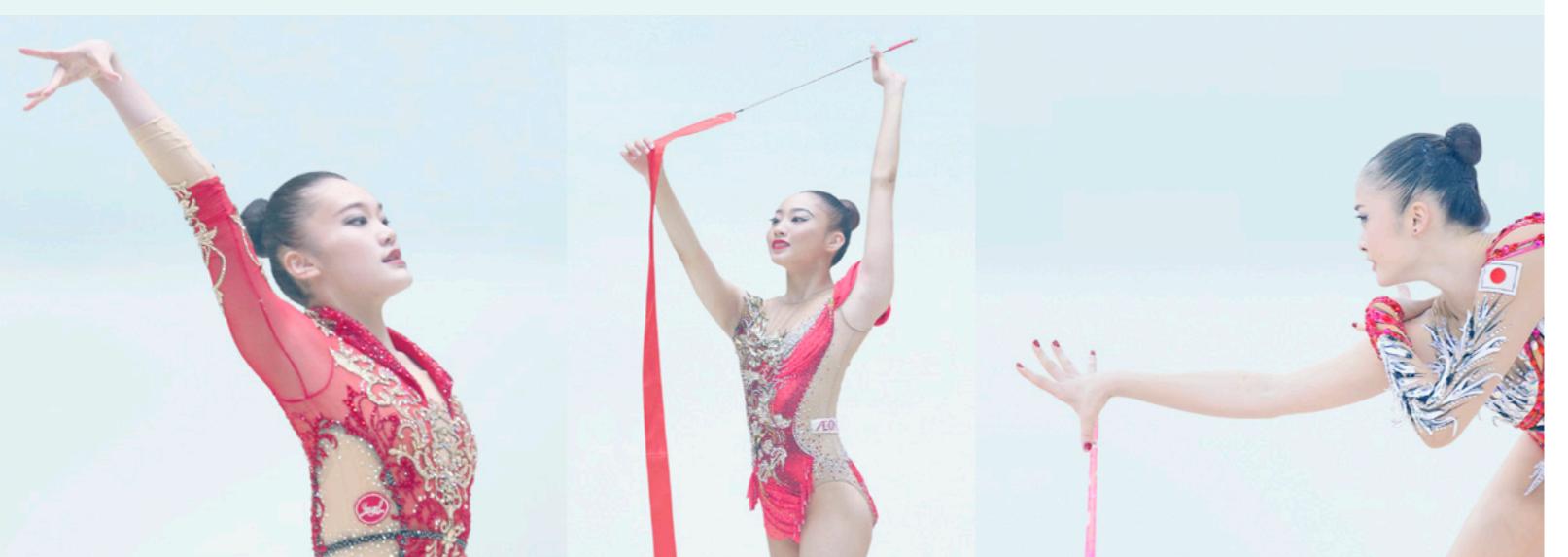
ひとつになって挑む姿は、

私たちの心に熱く語りかける。

夢はなくならない限り、終わることはない。

誰にでも可能性を広げる力はある。

そう信じて、これからも。さあ、羽ばたき続けよう。



ご声援ありがとうございました。

フェアリー ジャパン POLA
サポート活動についてはこちら



HONOR NO NO

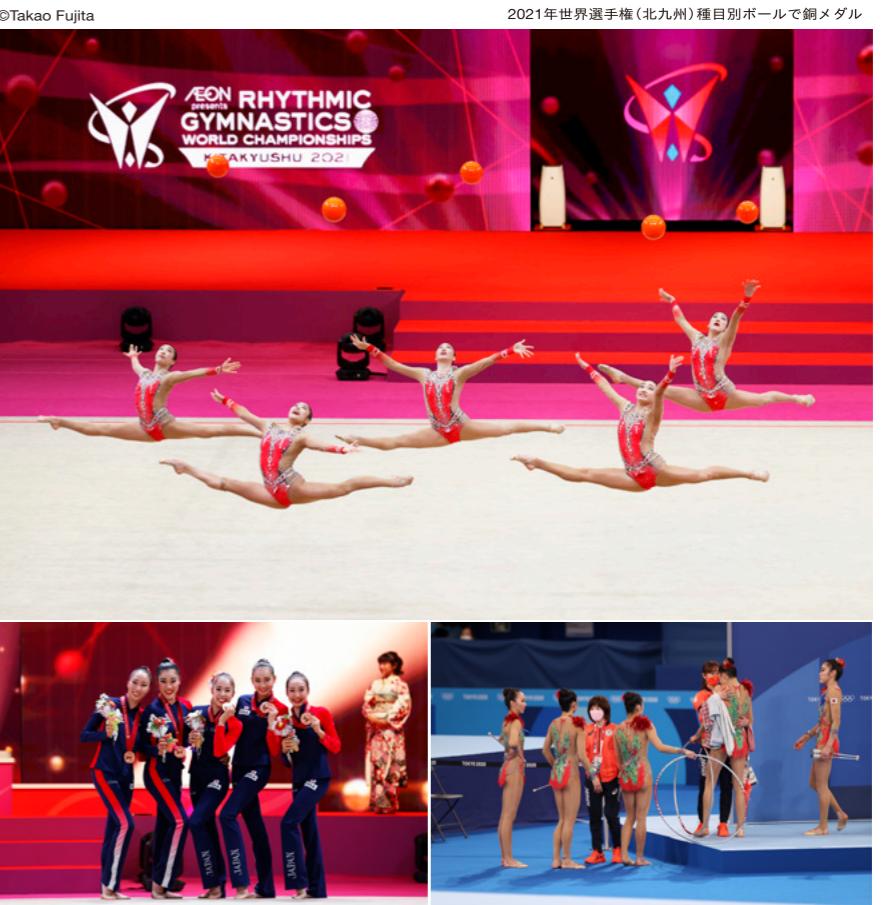
Interview
Hiroyuki Yamasaki

山崎浩子(やまさき ひろこ)
1960年1月3日生まれ。鹿児島県出身。鹿児島純心女子高校→東京女子体育短期大学→東京女子体育大学。全日本選手権個人総合5連覇、ロサンゼルス・オリンピック個人総合8位入賞。2001年から新体操の強化副本部長、2004年からは強化本部長を務める。2021年世界選手権後に同職を退任。『センススポーツを楽しむには「優れた感性」が必要だ』(徳出版社)などスポーツライターとして著書多数。日本スポーツプロレス協会会員。

東京オリンピックを終えて、強化本部長を退任することを発表しました。最後の大会になったのが、オリンピックの2か月後に北九州で行われた世界選手権です。なぜ同じ年に世界選手権があるのか、最初はスケジュールについてすごく疑問があり文句も言っていました(笑)。終わってみれば、このタイミングで世界選手権があつて良かったです。

オリンピック直後は熨斗谷さくらさん、横田葵子さんは引退を決め、松原梨恵さんはやる方向、杉本早裕吏さんは辞める方向という状況でした。でもやる方向の松原さんも、仲間が1人抜け、2人抜けとなつていくと心が揺れていく。練習中に涙することもありました。このままでは松原さんも辞める方向にわりかねないといましたので、私は杉本さんを引き留めることにしました。松原さんだけだと彼女の心が持たないと思つたんです。これまで選手を引き留めたことはなかつたんですが、このときばかりは絶対に引き留めないといけないといました。そうでないと世

界選手権にチームが出席することさえできなくなる。それで2人には、「あなたの人生のうちの2か月を私にください」とそれぞれに伝えました。



©Takao Fujita

2021年世界選手権表彰にて

©Hiroyuki Yamasaki

知ったこと、学んだことを伝えたい

間で注射を打つたりしていたのですが、その後結果は団体総合8位。入賞はできましたが、そなれると、全体の練習時間がなかなか取れない。メダルを狙える選手が、実際にメダルを獲ることの凄さを改めて感じましたね。東京オリンピックでのフェアリージャパンは、そこまで成長していませんでした。まだ成長の過程だと思います。

また大会でした。

東京オリンピックを終えて、強化本部長を退任することを発表しました。最後の大会にな

ったのが、オリンピックの2か月後に北九

州で行われた世界選手権です。なぜ同じ年に世界選手権があるのか、最初はスケジュール

についてすごく疑問があり文句も言つていま

した(笑)。終わってみれば、このタイミングで世界選手権があつて良かったです。

世界選手権があるのか、最初はスケジュール

についてすごく疑問があり文句も言つていま

した(笑)。

東京オリンピック直後は熨斗谷さくらさん、横

田葵子さんは引退を決め、松原梨恵さんはや

る方向、杉本早裕吏さんは辞める方向とい

う

状況でした。でもやる方向の松原さんも、仲

間が1人抜け、2人抜けとなつていくと心が

揺れていく。練習中に涙することもありま

す。

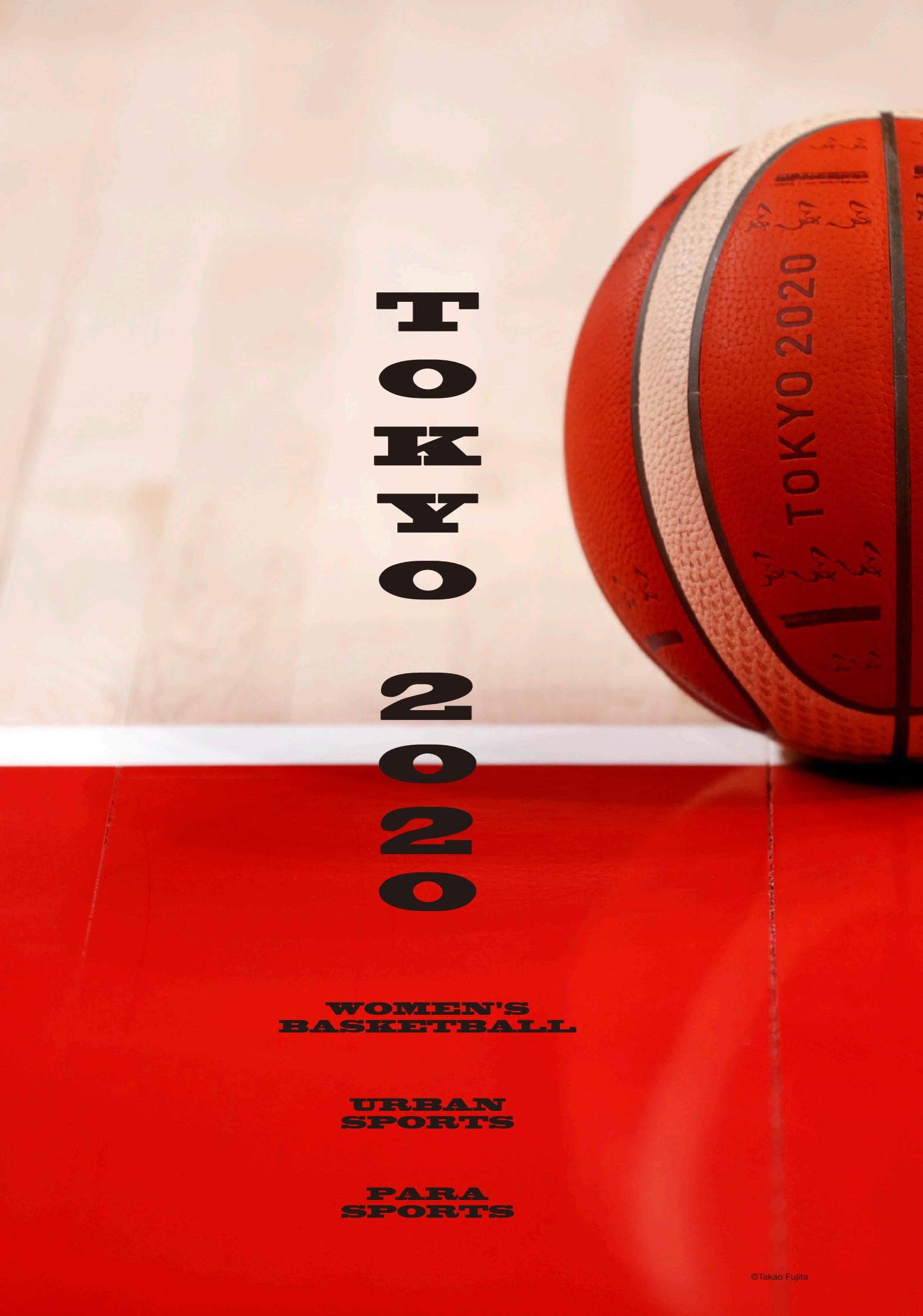
田葵子さんは引退を決め、松原梨恵さんはや

る

方向、杉本早裕吏さんは辞める方向とい

う

状況でした。でもやる方向の



AJPS マガジン

2022 vol.38/39

Index

TOKYO 2020

- 04 Interview
山崎浩子
「新体操と私」～出会い、そしてこれから～
- 12 女子バスケットボール
「スーパースターなきスーパーチーム」
- 16 アーバンスポーツ
「解放区で目にした社会の理想型」
- 20 パラスポーツ
「国枝慎吾が教えてくれたこと」
- 24 Precious Moment
赤木真二／田口有史／松尾憲二郎
- 30 写真俳句の世界
中谷吉隆

WE LEAGUE 2021-22

- 31 Interview
岡島喜久子 WEリーグチア
「元年に描く未来」
- 36 Interview
松原冴沙 ノジマステラ神奈川相模原
「WEリーガーの責任と覚悟」
- 40 第98回東京箱根間往復大学駅伝競走
「箱根駅伝に魅せられて」

長年の信頼 HCLファインアートプリントサービス

作品のイメージを極限まで表現した「ファインアート・プリント」を国内外有数のアーティスト用紙でご提供します。



イルフォード
スムースコットンソノラ

ハーネミューレ
ファインアート バライタ

深い色合い、上質な光沢と質感、広い色再現域、
高い最大濃度と滑らかなグレーの階調表現で、
特にモノクロ写真に最適です。

※イルフォードゴールドファイバーパーフルのお取り扱いもございます。



アート作品や美術館の複製プリント、写真作品、インテリア装飾などのプリントに適しており、暖かく優しい表現にもおすすめです。
肌や髪の質感表現、風景はしっかりと上品な印象に仕上がります。
耐久性に優れ、カラー、モノクロ問わずお使いいただけます。

精細で滑らかな面質により多目的に使え、
モノクロとカラー写真のどちらにも適し、
深みを感じる絵画的な作品に仕上がります。

WOMEN'S
BASKETBALL

URBAN
SPORTS

PARA
SPORTS

Cover Photo
国立競技場 ©Takao Fujita



©Takao Fujita

株式会社
堀内カラー

トイメージングセンター フォトアート課
東京都千代田区神田小川町2-6-14
☎ (03) 6854-9581

関西営業部 営業課
大阪府大阪市北区万歳町3-17
☎ (06) 6313-2351

ファインアートプリント
サービスの詳細はこちら▶
webからも注文できます!



WOMEN'S BASKETBALL



大黒柱、高田真希 vs. アメリカ(決勝)

スーパー・チーム

文／小永吉陽子

写真／藤田孝夫

スーパー・スターなき

徹底された スマートボール戦術

たのだから。
指揮官のトム・ホーバスは2017年にヘッドコーチに就任したときから、周囲から高

点差をつけて快勝。決勝では女王アメリカに

75対90で敗れたが、堂々の戦いを見せてのメダル獲得である。

その戦いぶりはバスケットボールファンの

みならず、バスケットボールを初めて観た人

たちをも「面白い」「楽しい」と虜にした。

何しろ、出場12チーム中、2番目に低い平均

身長175・8センチの小柄な選手たちが、

どこよりも速いスピードと正確な3ポイント

シュート、しつこいディフェンスを武器に、

高さと実力があるチームから次々に勝利を奪

いい3ポイントを多投し、2点シュートでは確率の高いペイントアタックを仕掛け、効率

が悪いとされるロングツー（3ポイントライ

ンより少し手前の距離で打つ2点ショット）

で強化を進めてきた。

「日本のスピードを生かし、シュートを打つ

スペースさえ作ればサイズのなさは問題には

なりません。また日本には世界一マジメに練

習する選手たちが揃っています。日本のスピ

ードとショート力を生かしてハードワークを

続ければ絶対に金メダルを目指せます」と発

言し、就任当時から戦術を少しづつ変化させ

ながら、オリンピックで勝負した『スマート

ボール』にたどりついた。

スマートボールとは、サイズの小さなチー

ムが豊富な運動量を生かし、確率の高いアウ

トサイドシュートを量産して戦うスタイルの

ことだ。細かい戦術面でいえば、得点効率の

いい3ポイントを多投し、2点シュートでは確率の高いペイントアタックを仕掛け、効率

が悪いとされるロングツー（3ポイントライ

ンより少し手前の距離で打つ2点ショット）

で強化を進めてきた。

「日本のスピードを生かし、シュートを打つ

スペースさえ作ればサイズのなさは問題には

なりません。また日本には世界一マジメに練

習する選手たちが揃っています。日本のスピ

ードとショート力を生かしてハードワークを

続けば絶対に金メダルを目指せます」と発

言し、就任当時から戦術を少しづつ変化させ

ながら、オリンピックで勝負した『スマート

ボール』にたどりついた。

スマートボールとは、サイズの小さなチー

ムが豊富な運動量を生かし、確率の高いアウ

トサイドシュートを量産して戦うスタイルの

ことだ。細かい戦術面でいえば、得点効率の

いい3ポイントを多投し、2点シュートでは確率の高いペイントアタックを仕掛け、効率

が悪いとされるロングツー（3ポイントライ

ンより少し手前の距離で打つ2点ショット）

で強化を進めてきた。

「日本のスピードを生かし、シュートを打つ

スペースさえ作ればサイズのなさは問題には

なりません。また日本には世界一マジメに練

習する選手たちが揃っています。日本のスピ

ードとショート力を生かしてハードワークを

続けば絶対に金メダルを目指せます」と発

言し、就任当時から戦術を少しづつ変化させ

ながら、オリンピックで勝負した『スマート

ボール』にたどりついた。

スマートボールとは、サイズの小さなチー

ムが豊富な運動量を生かし、確率の高いアウ

トサイドシュートを量産して戦うスタイルの

ことだ。細かい戦術面でいえば、得点効率の

いい3ポイントを多投し、2点シュートでは確率の高いペイントアタックを仕掛け、効率

が悪いとされるロングツー（3ポイントライ

ンより少し手前の距離で打つ2点ショット）

で強化を進めてきた。

「日本のスピードを生かし、シュートを打つ

スペースさえ作ればサイズのなさは問題には

なりません。また日本には世界一マジメに練

習する選手たちが揃っています。日本のスピ

ードとショート力を生かしてハードワークを

続けば絶対に金メダルを目指せます」と発

言し、就任当時から戦術を少しづつ変化させ

ながら、オリンピックで勝負した『スマート

ボール』にたどりついた。

スマートボールとは、サイズの小さなチー

ムが豊富な運動量を生かし、確率の高いアウ

トサイドシュートを量産して戦うスタイルの

ことだ。細かい戦術面でいえば、得点効率の

いい3ポイントを多投し、2点シュートでは確率の高いペイントアタックを仕掛け、効率

が悪いとされるロングツー（3ポイントライ

ンより少し手前の距離で打つ2点ショット）

で強化を進めてきた。

「日本のスピードを生かし、シュートを打つ

スペースさえ作ればサイズのなさは問題には

なりません。また日本には世界一マジメに練

習する選手たちが揃っています。日本のスピ

ードとショート力を生かしてハードワークを

続けば絶対に金メダルを目指せます」と発

言し、就任当時から戦術を少しづつ変化させ

ながら、オリンピックで勝負した『スマート

ボール』にたどりついた。

スマートボールとは、サイズの小さなチー

ムが豊富な運動量を生かし、確率の高いアウ

トサイドシュートを量産して戦うスタイルの

ことだ。細かい戦術面でいえば、得点効率の

いい3ポイントを多投し、2点シュートでは確率の高いペイントアタックを仕掛け、効率

が悪いとされるロングツー（3ポイントライ

ンより少し手前の距離で打つ2点ショット）

で強化を進めてきた。

「日本のスピードを生かし、シュートを打つ

スペースさえ作ればサイズのなさは問題には

なりません。また日本には世界一マジメに練

習する選手たちが揃っています。日本のスピ

ードとショート力を生かしてハードワークを

続けば絶対に金メダルを目指せます」と発

言し、就任当時から戦術を少しづつ変化させ

ながら、オリンピックで勝負した『スマート

ボール』にたどりついた。

スマートボールとは、サイズの小さなチー

ムが豊富な運動量を生かし、確率の高いアウ

トサイドシュートを量産して戦うスタイルの

ことだ。細かい戦術面でいえば、得点効率の

いい3ポイントを多投し、2点シュートでは確率の高いペイントアタックを仕掛け、効率

が悪いとされるロングツー（3ポイントライ

ンより少し手前の距離で打つ2点ショット）

で強化を進めてきた。

「日本のスピードを生かし、シュートを打つ

スペースさえ作ればサイズのなさは問題には

なりません。また日本には世界一マジメに練

習する選手たちが揃っています。日本のスピ

ードとショート力を生かしてハードワークを

続けば絶対に金メダルを目指せます」と発

言し、就任当時から戦術を少しづつ変化させ

ながら、オリンピックで勝負した『スマート

ボール』にたどりついた。

スマートボールとは、サイズの小さなチー

ムが豊富な運動量を生かし、確率の高いアウ

トサイドシュートを量産して戦うスタイルの

ことだ。細かい戦術面でいえば、得点効率の

いい3ポイントを多投し、2点シュートでは確率の高いペイントアタックを仕掛け、効率

が悪いとされるロングツー（3ポイントライ

ンより少し手前の距離で打つ2点ショット）

で強化を進めてきた。

「日本のスピードを生かし、シュートを打つ

スペースさえ作ればサイズのなさは問題には

なりません。また日本には世界一マジメに練

習する選手たちが揃っています。日本のスピ

ードとショート力を生かしてハードワークを

続けば絶対に金メダルを目指せます」と発

言し、就任当時から戦術を少しづつ変化させ

ながら、オリンピックで勝負した『スマート

ボール』にたどりついた。

スマートボールとは、サイズの小さなチー

ムが豊富な運動量を生かし、確率の高いアウ

トサイドシュートを量産して戦うスタイルの

ことだ。細かい戦術面でいえば、得点効率の

いい3ポイントを多投し、2点シュートでは確率の高いペイントアタックを仕掛け、効率

が悪いとされるロングツー（3ポイントライ

ンより少し手前の距離で打つ2点ショット）

で強化を進めてきた。

「日本のスピードを生かし、シュートを打つ

スペースさえ作ればサイズのなさは問題には

なりません。また日本には世界一マジメに練

習する選手たちが揃っています。日本のスピ

ードとショート力を生かしてハードワークを

続けば絶対に金メダルを目指せます」と発

言し、就任当時から戦術を少しづつ変化させ

ながら、オリンピックで勝負した『スマート

ボール』にたどりついた。

スマートボールとは、サイズの小さなチー

ムが豊富な運動量を生かし、確率の高いアウ

トサイドシュートを量産して戦うスタイルの

ことだ。細かい戦術面でいえば、得点効率の

いい3ポイントを多投し、2点シュートでは確率の高いペイントアタックを仕掛け、効率

が悪いとされるロングツー（3ポイントライ

ンより少し手前の距離で打つ2点ショット）



トム・ホーバスヘッドコーチと抱き合う宮澤夕貴

り、確率の高い3ポイントを打つことが当たる前になっていた。そして最終的に壁になっていたのがインサイドの差だった。どれだけ死力を尽くしても、最終的には高さでねじこまれて終盤に力尽きてしまっていたのだ。

1996年のアトランタ五輪でも、2016

年のリオ五輪でも、決勝トーナメントにはたどりつくことができた。しかし8強の壁を破ることはできなかつた。決勝トーナメントを戦い抜くチームになるには、高さの壁を克服し、もっと速く、もっと効率のいいシートチャレンジやスペースを作りだす必要性があつた。戦い方を変えなければならなかつたのだ。

そこで見出されたのが東京で披露した『スマールボール』だ。トム・ホーバスが就任した翌年、2018年のワールドカップあたりから、全員が3ポイントを打つスタイルに徐々にシフトチェンジしていくのである。

この頃からインサイドの選手も本数は少なくとも、3ポイントを打ち始めるようになつた。

時代背景やトレンドによつて戦い方の変遷はあるものの、いつの時代も女子バスケットの土台となるのは3ポイントとスピード、粘り強いディフェンスであること

ウォリアーズやロケッツのよう

トの確率38・4%は全体1位。特筆すべきは試投数の多さで190本は断トツ1位。もちろん、1試合平均試投数31.7本、成功数12.2本も1位。1試合で10本以上決めているチームも日本だけだつた。決勝のアメリカ戦では3ポイントを抑えられてしまつたが、準決勝までは40・9%の高確率を維持していた。

この高確率の3ポイントを生み出したのが、

ゴール下にある長方形のペイントされた部分に切れ込んでいく「ペイントアタック」であ

り、そこからのキックアウトパスである。

司令塔の町田瑠唯はペイントエリアにどん

どん切れ込んでいき、ディフェンスとのズレを作つてキックアウトからチャンスメイクし

た。その巧みな攻めで、準決勝のフランス戦では1試合最多アシスト18本というオリエンピックレコードを樹立し、一躍注目を集めた。

162センチの小さな司令塔が世界から賞賛



効果的な3ポイントシュートを放ったオコエ桃仁花 vs. アメリカ(決勝)

アトランタ、リオ、そして東京へ

実のところ、3ポイントを主体に戦う戦術は今に始まつたことではない。もともと、女子バスケの生命線は3ポイントにあり、1996年のアトランタ五輪では3ポイントのシュート力で台頭して初の準々決勝に進出している。当時の3ポイントの試投数は前回2016年のリオ五輪の1試合平均18・7本よりも多い23・25本。準々決勝のアメリカ戦では13/32本(40・6%)も決めている。

現在はピック&ロールとペイントアタックによってズレを作り出しているが、アトランタ五輪当時はパッシングやモーションオフェンスを多用してズレを作り出していた。また特筆すべきは180センチ台のウイングを揃えてオールラウンダー化を図つたことである。そのオールラウンダーたちがスピードある攻防と3ポイントのシュート力を生かしたことでも、世界の中でも一目置かれる『異質』な戦い方を披露していたのである。

だが、いつしかサイズのある国も速攻に走るバーチームです

「日本にスーパースターはいないけれど、ス

ポールに踏み切つたのは、スピードと3ポイントのシュート力では絶対に負けない自負があるからこそ。何より、全員がチームの約束事を遂行できる組織力によって相手を根負けさせたのだ。ホーバスヘッドコーチは胸を張つてこう言つた。

「日本にスーパースターはいないけれど、ス

ポールに踏み切つたのは、スピードと3ポイントのシュート力では絶対に負けない自負があるからこそ。何より、全員がチームの約束事を遂行できる組織力によって相手を根負けさせたのだ。ホーバスヘッドコーチは胸を張つてこう言つた。

町田瑠唯、準決勝のフランス戦では18アシストの五輪新記録



URBAN
SPORTS



パークで4位入賞の岡本碧優(みすぐ)。メダルには届かずもそのチャレンジ精神は感動を与えた



ストリートで日本五輪史上最年少(13歳)の金メダリストとなった西矢椛(もみじ)

トを与えた。ストリートで優勝した西矢椛が13歳、3位の中山楓奈が16歳、パークで優勝した四十住さくらが19歳、2位の開心那においては12歳である。

「低年齢選手なので、オリンピックの大きさはまだ分かつてないんです。そこから生まれる『いい雰囲気』なので、僕らも『オリンピックだから』とは言わないようになっています」

当時日本代表でコーチを務めた早川大輔の解釈と対応は、理解できるものだった。ただ金メダルという到達点から眺めれば、それは小さな要因にすぎない。トップスケーターともなれば、高難度のトリック(技)のメイク(成功)に、1年以上の歳月を費やす。そんな背景を考えると、そのコントラストに折り合いをつけ受け止めることは難しい。

大人世代が10代のスケーターから受けたインパクトの理由は、『若さ』だけではないはずだ。とにかく現場で見る限りでは、アップのときからひたすら楽しそうな選手たちしか見当たらない。五輪という舞台で自分が慣れ親しみ求めてきたものは、明らかに違う雰囲気が支配している。プレッシャー、緊迫感、それらとは対極にある自由で、開放感のあるフィールドに見えた。五輪とはこういうもの——そんな自分なりの概念が崩されていく。

西矢椛は、13歳のときに声を掛け合い、笑い合い、励まし合っていた。

女子パークの決勝で、象徴的なシーンがある。4位で最終試技に臨んだ岡本碧優(15歳)は、最後に高難度のトリック(フリップインディ)に挑む。しかし惜しくも転倒、メダルには届かなかった。涙に暮れながら引き上げる彼女を迎えたのは、ともに戦ったスケータたちだった。メダルに固執するなら、難度を下げる選択もあった。ただ果敢に挑んだ岡本を、仲間のスケーターたちは讃えた。私はコンテストでメダルをとるためにスケボーをやっているわけじゃない——そんなメッセージが聞こえてきそうなシーンだった。

ストリートで日本五輪史上最年少(13歳)の金メダリストとなつた西矢は、試合直後にこう語った。

「他の人も応援してくれるから、最後まであきらめずにやろうと思いました」

ここでいう「他の人」とは、今一緒に競い合つたライバルのことを指す。もしかすると彼女たちに、競う相手を『敵』と見なす感覚はないのかもしれない。この純粋な感性に、どれだけの人がついているだろう。かく言う私も、その感性の壁を前にして、ただ佇んでいるだけだ。

さらに無視できないのは、スケートボードの競技特性である。採点競技のスポーツにおいて、ひとつずつミスが命取りという実情は多々ある。しかしスケートボードという競技は、ミスに寛容だ。何度かトライする中で、ベストバフオーマンスがチョイスされる。リセット感があり、だからスケーターも思い切ってトライできる。転んでもまだ立ち上がり——そんな感性も醸成されるだろうから、結果世界中の若者に支持されるのも理解できる。パーク3位のスカイ・ブラウン(イギリス)/13歳)のヘルメットには、「勇気をもつて楽しもう!」と刻まれていた。

競う相手を 敵と見なさない感性

女子パークの決勝で、象徴的なシーンがある。4位で最終試技に臨んだ岡本碧優(15歳)

は、最後に高難度のトリック(フリップインディ)に挑む。しかし惜しくも転倒、メダルには届かなかった。涙に暮れながら引き上げる彼女を迎えたのは、ともに戦ったスケータたちだった。メダルに固執するなら、難度を下げる選択もあった。ただ果敢に挑んだ岡本を、仲間のスケーターたちは讃えた。私はコンテストでメダルをとるためにスケボーをやっているわけじゃない——そんなメッセージが聞こえてきそうなシーンだった。

ストリートで日本五輪史上最年少(13歳)の金メダリストとなつた西矢は、試合直後にこう語った。

「他の人も応援してくれるから、最後まであきらめずにやろうと思いました」

ここでいう「他の人」とは、今一緒に競い合つたライバルのことを指す。もしかすると彼女たちに、競う相手を『敵』と見なす感覚はないのかもしれない。この純粋な感性に、どれだけの人がついているだろう。かく言う私も、その感性の壁を前にして、ただ佇んでいるだけだ。

さらに無視できないのは、スケートボードの競技特性である。採点競技のスポーツにおいて、ひとつずつミスが命取りという実情は多々ある。しかしスケートボードという競技は、ミスに寛容だ。何度かトライする中で、ベストバフオーマンスがチョイスされる。リセット感があり、だからスケーターも思い切ってトライできる。転んでもまだ立ち上がり——そんな感性も醸成されるだろうから、結果世界中の若者に支持されるのも理解できる。パーク3位のスカイ・ブラウン(イギリス)/13歳)のヘルメットには、「勇気をもつて楽しもう!」と刻まれていた。

崩されていた 五輪の概念

無観客の箱物ならともかく、無観客の仮設スタンドは異様な風景だった。太陽に晒されただけのプラスチック椅子は、人の温かみを感じることなく解体されていくのだ。逆に「もしも有観客だったら」という想像も伴うので、やるせない想いは募る。いわゆるアーバンスポーツ(スケートボード、スポーツクライミング、BMXなど)は、一様にそんな空気を纏っていた。

ただその無機質な空間こそが、選手たちをより輝かせて見せたとも言える。ナショナリズムや勝利至上主義から逃れられない者からすれば、そこはまさに近くて遠い「解放区」だった。

個人的には「スケートボードが五輪競技になる」と聞いたとき、若干の違和感を抱いていた。もちろんIOCが方針として、若者を取り込む狙いは承知している。時代の流れと言つてしまえば簡単に片付くが、昭和生まれのスポーツお馬鹿さんにとっては、小さくないニュースだった。おそらく令和の世、スケボーの五輪参戦はむしろ当たり前と思う人の方が多かったかもしれない。贊否を論ずるつもりはまったくない。如何に自分が時代の風を捉えられていないか、その事実を見せつけられた気がしたからだ。

実際、アーバンスポーツ元年となつた東京大会では、日本人が大活躍した。とりわけスケートボード女子チームエイジヤーたちの活躍は、同世代以上に大人の世代にインパクトを与えていた。無観客の箱物ならともかく、無観客の仮設スタンドは異様な風景だった。太陽に晒されただけのプラスチック椅子は、人の温かみを感じることなく解体されていくのだ。逆に「もしも有観客だったら」という想像も伴うので、やるせない想いは募る。いわゆるアーバンスポーツ(スケートボード、スポーツクライミング、BMXなど)は、一様にそんな空気を纏っていた。

ただその無機質な空間こそが、選手たちをより輝かせて見せたとも言える。ナショナリズムや勝利至上主義から逃れられない者からすれば、そこはまさに近くて遠い「解放区」だった。

個人的には「スケートボードが五輪競技になる」と聞いたとき、若干の違和感を抱いていた。もちろんIOCが方針として、若者を取り込む狙いは承知している。時代の流れと言つてしまえば簡単に片付くが、昭和生まれのスポーツお馬鹿さんにとっては、小さくないニュースだった。おそらく令和の世、スケボーの五輪参戦はむしろ当たり前と思う人の方が多かったかもしれない。贊否を論ずるつもりはまったくない。如何に自分が時代の風を捉えられていないか、その事実を見せつけられた気がしたからだ。

実際、アーバンスポーツ元年となつた東京大会では、日本人が大活躍した。とりわけスケートボード女子チームエイジヤーたちの活躍は、同世代以上に大人の世代にインパクトを与えていた。無観客の箱物ならともかく、無観客の仮設スタンドは異様な風景だった。太陽に晒されただけのプラスチック椅子は、人の温かみを感じることなく解体されていくのだ。逆に「もしも有観客だったら」という想像も伴うので、やるせない想いは募る。いわゆるアーバンスポーツ(スケートボード、スポーツクライミング、BMXなど)は、一様にそんな空気を纏っていた。

ただその無機質な空間こそが、選手たちをより輝かせて見せたとも言える。ナショナリズムや勝利至上主義から逃れられない者からすれば、そこはまさに近くて遠い「解放区」だった。

個人的には「スケートボードが五輪競技になる」と聞いたとき、若干の違和感を抱いていた。もちろんIOCが方針として、若者を取り込む狙いは承知している。時代の流れと言つてしまえば簡単に片付くが、昭和生まれのスポーツお馬鹿さんにとっては、小さくないニュースだった。おそらく令和の世、スケボーの五輪参戦はむしろ当たり前と思う人の方が多かったかもしれない。贊否を論ずるつもりはまったくない。如何に自分が時代の風を捉えられていないか、その事実を見せつけられた気がしたからだ。

実際、アーバンスポーツ元年となつた東京大会では、日本人が大活躍した。とりわけスケートボード女子チームエイジヤーたちの活躍は、同世代以上に大人の世代にインパクトを与えていた。無観客の箱物ならともかく、無観客の仮設スタンドは異様な風景だった。太陽に晒されただけのプラスチック椅子は、人の温かみを感じることなく解体されていくのだ。逆に「もしも有観客いたら」という想像も伴うので、やるせない想いは募る。いわゆるアーバンスポーツ(スケートボード、スポーツクライミング、BMXなど)は、一様にそんな空気を纏っていた。

ただその無機質な空間こそが、選手たちをより輝かせて見せたとも言える。ナショナリズムや勝利至上主義から逃れられない者からすれば、そこはまさに近くて遠い「解放区」だった。

個人的には「スケートボードが五輪競技になる」と聞いたとき、若干の違和感を抱いていた。もちろんIOCが方針として、若者を取り込む狙いは承知している。時代の流れと言つてしまえば簡単に片付くが、昭和生まれのスポーツお馬鹿さんにとっては、小さくないニュースだった。おそらく令和の世、スケボーの五輪参戦はむしろ当たり前と思う人の方が多かったかもしれない。贊否を



世界は、
まだない感動であふれてる。

生みだせ。

常識より、情熱の先にあるものを。

魅せつけろ。

大物である以上に、本物であることを。

クラス最高のプログレード、G-Technologyは
「SanDisk Professional」へ生まれ変わる。

並外れたスピード、どんなジョブにも対応する大容量。

あらゆるレベルの制作に対応する

拡張性と、優れた耐久性。

クリエイターの創造性を妨げることなく、

高品質のパフォーマンスに貢献する。

創造力を、解き放て。

 SanDisk®
PROFESSIONAL

さあ世界を、次の感動へ連れていく。



sandiskprofessional.com

Western Digital、Western Digitalのロゴ、G-Technology、G-Technologyのロゴ、SanDisk、SanDiskにまつわるデザイン、SanDisk Professional、SanDisk Professionalのロゴ、WD、G-DRIVE、G-RAIDおよびUltrastarは、米国および他の国におけるWestern Digital Corporation、またはその関連企業の登録商標または商標です。その他の商標は各所有者に帰属します。



結果を恐れずまでトライした岡本を讃える仲間たち

相手のミスは自分にとつてのプラス、それは紛れもないスポーツの宿命である。もちろんスケートボードも例外ではない。ただそこを経過に求めるか結果に委ねるかでは、少し話は変わってくる。明らかに後者の若きスケーターたちは、いい意味で自分だけを見ていた。だからこそ、競う相手のことさえ、フルットに応援できるのだろう。大人世代がインパクトを受けた本当の理由、それは計算のないピュアな「仲間意識」を見せつけられたからではなかつたか。仲間を思い、「支え合って競い合う」姿が、眩しかつたのだ。私たちが常に考えながらも実現できない社会の理想型が、有明アーバンスポーツパークにはあった。

テレビの中継、連日のメダルラッシュを受けた解説者の言葉が印象的だった。『今まで日本では、スケボーといえば『不良』、『迷惑』なイメージがほとんどだったと思うんですが、今日からそのイメージが変わるところを望んでいます。スケートボードをしている人、していない人が共存して生きていくける社会。みんながみんなを認め合えるような社会になつてほしい』

東京オリンピックの閉会式終盤、東京パリのハンドオーバーセレモニーが行われた。コロナ禍、フィールドにフランスからの演者はいない。この儀式もまたリモートが駆使された。パリ五輪の会場紹介で大型ビジョンに映し出されたのは、BMX、スケートボード、ブレイキン、主役はアーバンスポーツだった。決して新しさの表現ではなく、多様性の表現なのだ。さすがフランス、センスがいい。30年前、ヨーロッパを放浪していた頃、エッフェル塔前のトロカデロ広場でスケボーに興じる若者をスナップしたことを思い出した。アーバンスポーツの風、東京からパリへ。

国枝慎吾が 教えてくれた、こと

文・写真／吉村もと



2020東京五輪 決勝戦 vs. エフベリンク



決勝でエフベリンクを下し、優勝が決定。その瞬間、絶対王者が歓喜した

最初に国枝を撮影したのは2004年アテネパラリンピック、ダブルスの決勝だった。思い返せば、当時の車いすテニスは今のそれとはまったく異なるものだった。ひとつの例を挙げれば、その頃のバックハンドはスライスショットが多かった。スピードはないが滞空時間が長く、球が弾まない打ち方だ。

想像してみてほしい。片手にラケットを持ち、両手で車いすを操作し、コートを広く走り回る様子を。そのため、ボールはあるべく滞空時間が長いほうがよかったのだろう。その固定観念を最初に覆したのが、北京パラリンピック頃の国枝だった。地面からの反発力を利用できないにもかかわらず、スライスのバックハンドではなくトップスピンをかけたバックハンドを武器にした。

東京パラリンピックを50歳で迎え、男子ダブルスで優勝したステファン・ウデ（フランス）が今大会の国枝との試合後に「シンゴは車いすテニスを進化させた。一緒に戦うことを誇りに思う」と言ったということを、あるインタビュー記事で知った。それで思い出したことがある。

車いすテニスには、グランドスラムの下にスーパー・シリーズという大会ランクがある。かなり前のことになるが、スーパー・シリーズ

それを見て、「ああ、本当にこの瞬間を迎えられたのだ」と実感した。そして撮りたかった瞬間の画像を確認して、久しぶりに深く息をした。

ありがたいことにテニス会場のフォトポジションは他のパラリンピック会場と比べ、テニスのルールに従ってさえいれば移動も撮影もしやすく、他のカメラマンも、それぞれのベストポジションで密になることなく、この瞬間を撮影できたのではないだろうか。

見る人の想像を 1歩2歩超えて

最初に国枝を撮影したのは2004年アテネパラリンピック、ダブルスの決勝だった。思い返せば、当時の車いすテニスは今のそれとはまったく異なるものだった。ひとつの例を挙げれば、その頃のバックハンドはスライスショットが多かった。スピードはないが滞空時間が長く、球が弾まない打ち方だ。

想像してみてほしい。片手にラケットを持ち、両手で車いすを操作し、コートを広く走り回る様子を。そのため、ボールはあるべく滞空時間が長いほうがよかったのだろう。その固定観念を最初に覆したのが、北京パラリンピック頃の国枝だった。地面からの反発力を利用できないにもかかわらず、スライスのバックハンドではなくトップスピンをかけたバックハンドを武器にした。

決勝の舞台という緊張感と、静かな高揚感に包まれた美しい有明コロシアム。世界ランキング1位の国枝慎吾は、東京パラリンピックで初戦となる2回戦から1セットも落とすことなく、その時を迎えた。

「俺は最強だ」と自ら証明した絶対王者は、身体全体で叫んだ。

その瞬間を、私はここだと決めたフォトボジションで待っていた。

世界ランキング8位トム・エフベリンク（オランダ）の返球がネットに刺さった瞬間、国枝の優勝が決まったが、2セット目の内容すら覚えていない。どんな表情で優勝を手にするのか、それだけを追っていたからだ。

コーチゾーンを振り返って感情を露わにするだろうという予想は簡単に的中した。東京でパラリンピックが開催されることが決まってからずっと見たかった瞬間が目の前にやつてきた。

瞬時になぜか、過去の国枝がフラッシュバックした。

男子シングルス3連覇が懸かつた2016年のリオ大会。ケガで苦しんで敗退が決まった翌日、コーチや家族とバーク内でくつろぐ国枝に遭遇した。負けたにもかかわらず、プレッシャーから解放されたかのような晴れやかな表情を見た時のこと。リオ大会以降、コーチを変更しフォームを改造した。若いライバルたちの台頭と、それに伴う競技力の向上。その都度、進化を遂げた国枝の姿が、私の頭の中で勝手にループした。

カメラマンとして一瞬たりとも見逃さずシャッターを切りたい気持ちがあるので、目が震んでシャッターが上手く切れない。会場で観戦していた関係者、ボランティアの方々の歓声で正気に戻った時には、もうすでに国枝は国旗を手に持っていた。

撮りたかた瞬間

SONY



カメラグランプリ2013
大賞受賞
Cyber-shot RX1

カメラグランプリ2016
大賞受賞
α7R II

カメラグランプリ2018
大賞受賞
α9

カメラグランプリ2020
大賞受賞
α7R IV

sony.jp/ichigan/

α 無限の創造力を 検索

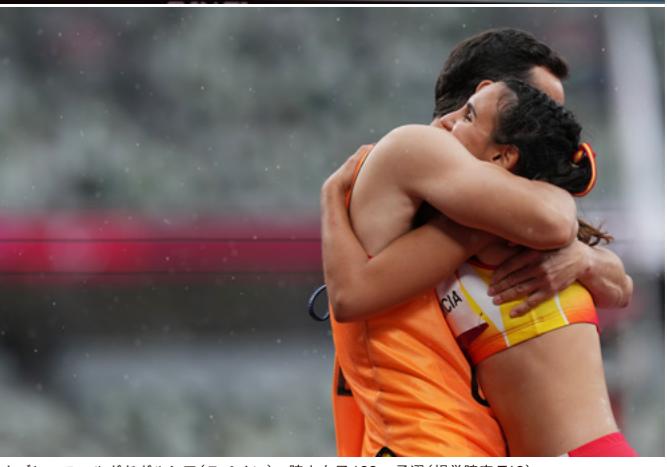


◎商品を安全に使うため、使用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。◎あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほか、著作権法上、権利者に無断で使用できません。◎購入の際には、必ず「保証書」の記載事項を確認のうえ、大切に保管してください。◎SONY、α および α ロゴはソニー株式会社の商標です。◎買い物相談窓口 ☎ 0120-777-886 携帯電話、PHS、一部のIP電話からは、050-3754-9555まで。受付時間 月～金9:00～18:00 ※祝日・年末年始除く

秋田啓 車いすバスケットボール1次リーグ vs. トルコ



八木克勝 卓球男子シングルス9位 男子団体(八木／井上) 9位



ナゴレ・フォルガドガルシア (スペイン) 陸上女子100m予選(視覚障害T12)

テニスへと進化した。
誰が勝つてもおかしくない状況で国枝は金メダルを勝ち取った。国枝がよく口にしていた「見る人の想像を1歩2歩超えていくプレーリーをして、競技のレベルの高さを、車いすテニスの魅力を伝えたい」という東京大会での目標は達成したのではないか。「満員の有観客で」という目標を達成できなかつたのは残念だが、それは今後の大きな楽しみにしておきたい。

なぜ今も 撮影を楽しめるのか

私の東京パラリンピックは、会場間の移動（ある時は国立競技場から、富士スピードウェイ）に翻弄され、気が付けば閉会式を迎えていた。フォトポジションの抽選には毎回のように間に合わず、電車では反対方面に2度乗り間違え、最終日には早朝のワーカー（エイ）に翻弄され、気が付けば閉会式を迎えていた。フォトポジションの抽選には毎回の3つあれば良いのに、と何度も思つたことか。

しかし、自国開催という一生に一度あるかないかの13日間、倒れまいとたくさんご飯を食べて痩せなかつたことがプラスとなり、撮影していた。ひとつのひとつの、車いすテニスというスポーツはもうひとつ進化するに違ひない、と感動を感じた。とつくてベテランの域に入つてたウデの貪欲さに、車いすテニスというスポーツはもつともつと進化するに違ひない、と感動を感じた。

2015年以降、イギリスをはじめとするヨーロッパの若手選手が強打を武器に台頭してきた。ひとりが抜き出ても、ライバルたちがすぐに追いつき、また誰かが突き放す。そのサイクルが何度も、何度も繰り返されてきた。

そして、東京大会はアテネ大会の時とはまったく違う。また前回のリオ大会よりもパワー

フルでスピードいい、そして綿密で魅力的な

撮影をして、競技のレベルの高さを、車いすテニスの魅力を伝えたい」という東京大会での目標は達成したのではないか。「満員の有観客で」という目標を達成できなかつたのは残念だが、それは今後の大きな楽しみにしておきたい。

それから信じられない瞬間を何度も目撃してきた。
全盲のサッカー選手が浮いたバスボールをダイレクトショートでゴールに突き刺した時は、頭の中に「？」しか浮かんでこなかつた。大腿切断の走り高跳びは、ケンケンでの助走から片足の踏切りで170センチの背面跳びを成功させる。上半身しか動かせない選手がエアースキーと呼ばれる一本の板の上に取り付けられた椅子に座つて時速100キロを超えるスピードで雪山を滑り降りてくる。普通に生活するなかでは想像することのない瞬間が目の前で繰り返され、今まで持つていた自分の中の固定観念が覆されていった。

その新鮮な驚きは年々薄れていき、目に映るものがすべてが新鮮というモチベーションで写真を撮ることは難しくなつていて。新しい視点で写真を撮る人を羨ましく思うこともあつた。
しかし、なぜ今でも楽しんで撮影ができるのかを考えみると、このスポーツは世界中で日々進化し、魅力を増していついるからだ。もちろん、それには用具の進化も含まれるが、それも競技力向上の工夫のひとつである。東京パラリンピックで目撃したもののがり広げられている環境は、贅沢なものだつた。週ること20年弱、地元の公園で車いすレーサーとすれ違つた。F1マシンかと2度見した時には遙かに遠くに消えていた。もう一度見度見たくて周回コースで待つてた。その時の衝撃は今も鮮明に覚えている。

こんなかっこいい車いすがあるのか、どうやつてそんなに速く車いすを進めることができた。恥ずかしながら、当時は障がい者スポーツ「イコール」「リハビリの延長」という認識だった。そう、何も知らなかつた。当時は今ほど情報も溢れていたくなつたので、どうやつて辿り着いたかははっきりと覚えていないが、小さな好奇心から足を突っ込み、







Precious Moment for Yukihito Taguchi

[AJPS MAGAZINE vol.38/39]

27

Shuichi YOSHIDA(Japan) / Handball vs.Bahrain Qualifying round
JULY 30th 2021 / Yoyogi National 1st Gymnasium / Japan
Tokyo 2020 Olympic Games

26

キヤノン EOS-1D X Mark III
EF70-200mm F2.8L IS III USM
サンディスク エクストリーム プロ CFexpress™ Type B カード



yosibo

WE LEAGUE

Chair Interview
Kikuko Okajima

岡島喜久子 WEリーグチア

元年に描く未来

文/木ノ原句望

女性活躍から、
ジンジャー平等へ

—最初にWEリーグ構想の話を聞いたときは、どう思われたのでしょうか?

岡島 「ああ、やっとここまで来たか」という思いですね。私がサッカーを始めた当初は、女子選手は日本サッカー協会に登録できず、初めて参加した1977年の台湾での国際大会にも単独チーム（FCジンナー）で日の丸を胸に付けられずに袖に付けての参加でした。でもほかはみんな代表チームだったので、「代表チームを作らなきゃ」という思いが込み上げて、それが転機になりました。そこからなので、「やっとプロチームができる」と嬉しい思いでした。

—日本は1989年にJリーグ（なしっこリーグ前身）が発足し、世界でも珍しかつ



東京オリンピック1964 ヨット会場聖火台 神奈川県藤沢市江の島

中谷吉隆（なかたに よじたか）
1937年生まれ。東京写真短期大学卒業後、東京新聞社の嘱託カメラマンに。60年からフリーとなり社会派フォトジャーナリストとして数々のルポルタージュをグラフ誌に掲載。1977年から1992年までAJPS代表を務めた。現在は俳号「龍子」を名乗る写真俳句の第一人者。

写真俳句の世界

中谷吉隆

Nikon

Z 9

UNSTOPPABLE

NIKKOR

70-200mm f/2.8 S Ø82

Z 9スペシャルコンテンツ

ニコンカスタマーサポートセンター
0570-02-8000

www.nikon-image.com

一般電話からは市内通話料金でお利用いただけます。営業時間 9:30~18:00 (土日祝日、年末年始、夏季休業等を除く毎日) ●ナビダイヤルがご利用いただけない場合は、(03) 6702-0577におかけください。●ファクシミリでの相談は、(03) 5977-7499へご送信ください。

株式会社ニコン・株式会社ニコンイメージングジャパン

1.1億本
NIKKOR



第11節 千葉Lー大宮V フクダ電子アリーナ
©Noriko Hayakusa



第8節 浦和ーI神戸 浦和駒場スタジアム
©Hiroki Watanabe



第5節 I神戸ー東京NB ノエビアスタジアム神戸
©Noriko Hayakusa



Chair Interview
Kikuko Okajima



WEリーグ開幕戦I神戸ー大宮Vはノエビアスタジアム神戸で開催された

—昨年9月の開幕以降、ここまででの配信視聴数や観客動員への手ごたえはどうですか？
岡島 DAZN YouTubeでの試合配信の再生数はなでしこリーグの時よりかなり増えています。入場者数は2千人を目標に掲げていますが、埼玉スタジアムでの浦和の試合(11月13日、マイ仙台戦)と開幕戦のI神戸のホームゲーム(9月12日、大宮V戦)ではそれぞれ4千人以上が入りました。コロナ禍による感染対策のための入場者制限(50%以下)がなければ、西が丘での東京NB戦(対

WEリーガーの 最低賃金は270万円

ほしいですし、男性にサポートもしてほしい。それに、女子サッカー界にはLGBTQの人も多く、女性ばかりを強調するのではなく、「ジェンダー平等」を掲げるようになります。例えば女子はクラブハウスや練習場を使えない、日本協会に登録できないなどでしたが、今は例え女子はクラブハウスや練習場を使用できないというケースを聞きます。そうすると、「女子は男子のおまけ」と意識をさせられてしまうわけです。そこで、私たちは次世代の子どもたちを含めて、選手たちを勇気づけるような形をどんどん前に出していきたい。私自身、「壁」も回り込むとか穴を掘るなどいろいろな方法で越えてきて、諦めたり後ずさりしたりすることなくやってきたので、それはリーグのやり方として伝えていくたいと思っています。

女子サッカーには昔から「壁」がたくさんありました。私が選手の頃は対戦チームがない、日本協会に登録できないなどでした。た。LGBTQについてリーグ全体で理解を深めているという点では一歩進んでいるかと思います。

女子サッカーには昔から「壁」がたくさんありました。私が選手の頃は対戦チームがない、日本協会に登録できないなどでした。た。LGBTQについてリーグ全体で理解を深めているという点では一歩進んでいるかと思います。

女子サッカーには昔から「壁」がたくさんありました。私が選手の頃は対戦チームがない、「ジェンダー平等」を掲げるようになります。私たちも社会的な意義を考え、最もふさわしいのが「ウーマン・エンパワーメント」に象徴されるジェンダー平等だと考えました。サッカーはもともと男性のスポーツで、日本では特にそうです。女性を前面に出していくかないと、どんなに時間がかかるてもこれまでと似たようなことになってしまう。そう考えて最初は女性活躍を一步前に押し出しました。ただ、女性だけでなく男性にも活躍してみたいと思っています。

—リーグとして、ジェンダー平等や女性のエンパワーメントというリーグの理念を強く打ち出したのは？
岡島 Jリーグは発足時に「スポーツを文化にする」「地元コミュニティと共存する」という社会的意義を前面に出していました。私たちも社会的な意義を考え、最もふさわしいのが「ウーマン・エンパワーメント」に象徴されるジェンダー平等だと考えました。サッカーはもともと男性のスポーツで、日本では特にそうです。女性を前面に出していくかないと、どんなに時間がかかるてもこれまでと似たようなことになってしまう。そう考えて最初は女性活躍を一步前に押し出しました。ただ、女性だけでなく男性にも活躍してみたいと思っています。

WEリーグには海外から代表選手が多く参加して注目を集めた時代もありました。その後は女子サッカーの環境も大きく変化して、WEリーグ発足には現代ならではの難しさがあったのでは？
岡島 最も難しかったのは、やはりパートナー企業探しですね。ブレンスさんやダイハツ工業さんなどこれまでも女子サッカーをサポートしてくれた企業もありますが、新たに可能性が高いと見込んでいた化粧品業界が、コロナ禍でマスクをすることが日常になつて口紅などの売り上げが落ち込んで全くダメでした。WEリーグに合うと思っていましたのですが……。その中でジェンダー平等という価値を認めてくださったのがウェブシャーク(ヨギボ-)さんや旭化成ホームプロダクツさん、ペーシングループさんで、そういう会社を見つけていくまでは苦労が多かったです。ただ、現在は交渉を詰めているパートナー企業もあるので、まだまだ増やしていくける可能性はあると思います。



KIKUKO OKAJIMA

WE LEAGUE

Chair Interview
Kikuko Okajima

浦和) ももっと入っていたと思います。入場者はもつと増やしていかなくてはなりませんし、リーグとしては露出を図っていきたい。クラブには試合会場での食べ物や子どもが参加できるイベント、マスコットとの写真撮影など楽しみ方を工夫して、地元コミュニティとの連携を深くしてほしいと思っています。

中村憲剛さんにもWEリーガー研修でプロ意識について話していただいたのですが、川崎フロンターレ選手が2人一組になつて地元商店街のお店を何度も訪問して、当初は興味がない帰つてくれと言つていた人達がどんどん応援に来てくれるようになった経験を話してくださいました。そういうことをWEリーグの選手にも心にとどめて活動してもらい、地元と連携して遠回りでも努力を続けてコアなファンを増やすてほしいと思っています。

——ファン獲得へ、リ

ーで考えていることはありますか?

岡島 外国籍選手に関しては、アメリカ代表のアレックス・モーガン選手やメーガン・ラピーノ選手などの一流どころとなると、やはり値段が高い。例えば、ディビッド・ベッカム選手がMLSへ移籍したような、現役終盤での移籍はあるかもしれません、現時点ではまだ難しい。でも、なでしこジャパンの強化を考えると、背が高い、足が速い、リード力長いというような選手が日本で常にプレーすることは日本人選手にとって非常に大きなメリットがあります。Jリーグ時代にも各国トップクラスの代表選手がたくさん来てプレーしたこと、外国人選手と対戦することになりましたが、その後がなくなつたと、当時の選手から聞いています。

それで、いまアメリカの大学からリクルートすることを考えています。プロ選手ではないですが、アメリカの大学の選手たちはレベルがかなり高いので、大学と連携して日本に興味を持つてもらえる選手に来てもらおう。私は実際にある大学に行つたんですが、アメリカ在住でWEリーグ国際アドバイザーを務める中村武彦さん(※注)にも積極的にアメリカの大学を訪問していただいているところであります。欧州についてはまだアプローチしていないのですが、欧洲クラブの選手はいま値段が高いです。でも、トップクラスの選手は年間4千万円ぐらいもらつていても、スペインリーグで月5万円という給与で仕事をしながらという選手もいると聞いています。その点で

外に移籍したので、国内にいる選手から、是非、スターが生まれてほしいなというのはあります。

——就任時に抱負として、外国籍選手を連れていきたいという話もされていましたが?

岡島 外国籍選手に関しては、アメリカ代表のアレックス・モーガン選手やメーガン・ラピーノ選手などの一流どころとなると、やは

り値段が高い。例えば、ディビッド・ベッカム選手がMLSへ移籍したような、現役終

盤での移籍はあるかもしれません、現時点ではまだ難しい。でも、なでしこジャパンの強化を考えると、背が高い、足が速い、リード力長いというような選手が日本で常にプレーすることは日本人選手にとって非常に大き

なメリットがあります。Jリーグ時代にも各

国トップクラスの代表選手がたくさん来てプレーしたこと、外国人選手と対戦することになりましたが、その後がなくなつたと、当時の選手から聞いています。

それで、いまアメリカの大学からリクルートすることを考えています。プロ選手ではないですが、アメリカの大学の選手たちはレベルがかなり高いので、大学と連携して日本に興味を持つてもらえる選手に来てもらおう。私は実際にある大学に行つたんですが、アメリカ在住でWEリーグ国際アドバイザーを務める中村武彦さん(※注)にも積極的にアメリカの大学を訪問していただいているところであります。欧州についてはまだアプローチしていないのですが、欧洲クラブの選手はいま値段が高いです。でも、トップクラスの選手は年間4千万円ぐらいもらつていても、スペインリーグで月5万円という給与で仕事をしながらという選手もいると聞いています。その点で

は、WEリーグでは年間270万円という最低賃金を設定しています。

女子のスポーツ人口を増やしたい

——WEリーグ発足で、日本人選手のプレー面への変化を感じていますか?

岡島 プレーに関しては強度の高い試合ができるようになります。プロになつた

ことで、それまで仕事をして夕方から練習していた選手たちが、午前中から練習して、セントプレーやキックなどの自主練習もするよ

うになつた。筋力トレーニングやマッサージで体をメンテナンスする時間もでき、以前は日本の女子は外国人選手と比べて体幹の弱さがありましたが、それがすごく改善されて、

昨夏の東京五輪ではベスト8でしたが、2023年のワールドカップや次のパリオリンピックでの成績は期待できるんじゃない

かと思っています。

——アメリカの女子リーグは何度か試行錯誤や紆余曲折がありましたが、世界トップクラスの選手が集まり、多くの固定ファンが試合に足を運ぶという環境があります。それは岡島チエアの理想像に近い姿でしょうか?

岡島 そうですね。アメリカのファン層はアメリカがすごく多くて、一番大きなグループです。それは非同じようにして行きたい。

実は、ほかの女子スポーツ団体と連携して、文科省や高体連、中体連に働きかけて、女子のスポーツ人口を増やす取り組みもしたいと考えています。ソフトボールや女子野球の方々とも話していて、人口が減つて子どもの数が減つてスポーツをやる女の子の数も減つてきている。そこで選手を取り合うのではなくて、バイを大きくして、1つではなく複数のスポーツをできるように働きかけていかな

いとなりません。女子サッカーは中学で部活がなくなってしまうので、指導者をこちらから派遣して複数の学校で1つのチームを編成してほしいという考え方をもつていています。

——WEリーグが興味を持つ企業や個人の連携をうまくとつてやっていけばいいと思うっています。ただ、子どもたちは是非とも、もっと試合を見に来ほしいですね。

アメリカに、なでしこジャパンも出場したShe Believes Cup(シービリーブスカップ)という国際大会があつて、試合のハーフタイムなどに来場した女の子たちに夢を

かなうになりました。選手は完全に彼女たちの憧れの存在にならぬままですが、やはりスターというのには自然発生でないと難しい。岩渕真奈選手(アーセナル)や長谷川唯選手(ウェストハム)が海

外でオーナーシップが違つたりします。日本では、JリーグのチームとWEリーグのチームが同じ名前で同じように活動しているところもあるので、そういうメリットは使つてしまいたいですね。WEリーグでJリーグの観客を見込めると思うので、日本独自で連携をうまくとつてやっていけばいいと思つています。ただ、子どもたちは是非とも、もっと試合を見に来ほしいですね。

アメリカに、なでしこジャパンも出場したShe Believes Cup(シービリーブスカップ)という国際大会があつて、試合のハーフタイムなどに来場した女の子たちに夢をかなうになりました。選手は完全に彼女たちの憧れの存在にならぬままですが、やはりスターというのには自然発生でないと難しい。岩渕真奈選手(アーセナル)や長谷川唯選手(ウェストハム)が海

外でオーナーシップが違つたりします。

岡島 是非、Yogibo WEリーグの試合を観ていただきたい。DAZNもありますがYouTubeでは毎節2試合を無料で見られて試合やゴール場面のハイライトもあります。リーグではWE ACTIONという理念推進活動も行つています。これまでスポーツのリーグではあまりなかつた動きだと思います。WE ACTIONではWE ACTの価値をもつと広く共有できるようになることを目指しています。

岡島 それはそうですが、それでもスターは、なかなか作れるものではないと思うんですよ。個人として「推し」の選手はいますが、やはりスターというのは自然発生でないと難しい。岩渕真奈選手(アーセナル)や長谷川唯選手(ウェストハム)が海

外でオーナーシップが違つたりします。

岡島 そこには素敵なドレステップで着飾つて、ピチとのギャップを出したいなと考えています。アイデアだけで進んでいかないのではなくて、バイを大きくして、1つではなく複数のスポーツをできるように働きかけていかなければならぬと思っています。

岡島 それはそうですが、それでもスターは、なかなか作れるものではないと思うんですよ。個人として「推し」の選手はいますが、やはりスターというのは自然発生でないと難しい。岩渕真奈選手(アーセナル)や長谷川唯選手(ウェストハム)が海

外でオーナーシップが違つたりします。

岡島 そこには素敵なドレステップで着飾つて、ピチとのギャップを出したいなと考えています。アイデアだけで進んでいかないのではなくて、バイを大きくして、1つではなく複数のスポーツ

2020年なでしこリーグ5節の神戸戦で岩渕真奈と競り合う



©Satoru Kaneko

早稲田時代にインカレを3連覇している(写真は第25回大会準決勝)



©Satoru Kaneko

ARISA MATSUBARA



Player Interview
Arisa Matsubara



©Noriko Hayakusa

松原有沙

ノジマステラ神奈川相模原

松原 そうなんですよ。やっぱり社会経験つてすごく大事なんですね。社会人としての礼儀、行動というのは、サッカーだけでは身につかないものもある。店舗に出て接客という形でいろんな人に関わることが出来たのは、引退後のことを考えても大きな経験でした。

——引退後のことを考えることは?

松原 最近ですよ(笑)。年齢も上がってきて、ノジマは若い選手が多いので余計に感じるのかもしれません、特に今シーズンはケガで自分と向き合う時間が多かったのでいろいろ考えました。

松原 指導者に興味があります。教員免許を持つてるので高校の教師をやりながら部活動を見るのもアリだなとか。どんな形でもサッカーに携わりたいとは思っています。

——今は引退後にどんなイメージを持つてるのでしょうか?

松原 自分に限らないと思うんですけど、前は雇用形態が社員としてあったので、福利厚生もちゃんとしてる。それがなくなりて個人事業主になるということは、確定申告とか税金のこととか、保険もなくなるし、そこは不安要素でした。

松原 そういう見方もありますよね。松原 確かにそういう意見は選手たちからも結構出ました。プロつてなると年契約でいつ切られるかわからない状態で、「からのスタート」になる。ノジマで働いていたり長ければ長いほど、それは感じることだと思いました。

——そこからプロ契約へ意識を切り替えた訳ですよね?

松原 もちろん不安はありましたよ。でもさ

——シーズンを海外に合わせるべく移行し、WEリーグ開幕で意識に変化あり

ツカーレ選手として集中できる、勝負できるっていうのも楽しみでした。プロ契約って自分の出来次第じゃないですか。自分の実力を知ることが出来るし、自分の価値はどれくらいのもののかを知れると思った。ちょうどキヤブテンをやるって話もあって、責任もあるし、チームをまとめるのもサッカーに集中して、実際は疲れ果ててしまっていましたが、たけど、迷いはありませんでした。

——プロ化で一番の変化は?

松原 午後を丸々自主トレーニングに当てられることですね。今まで自分の時間になつても、実際は疲れ果ててしましました(第5節後の練習で負傷)。かなり堪えたのではなく筋トレや走りに時間を使っていました。

——そして、松原選手は開幕後の「ここからだー」という時にケガをしてしまいました(第5節後)。なぜですか?

松原 キャプテンになつたことで、ピッチでより関わりたい想いが強かつたですから……。

松原 今は筋トレや走りに時間を使っています。今はシーズンは選手も入れ替わりが多かつたのでチームを作る上でもピッチにいたかったんですけど、ケガは仕方ないというかどうも出来ないのでオフの部分で積極的に声をかけることは心掛けていました。新加入選手もりハビリ組が多かつたんです。新しく入ってきた、ケガで離脱してしまった。そうなると、復帰してもチームに入りづらいじゃないですか。そうならないようにコミュニケーションはかなり取ってました。

——シーズンを海外に合わせるべく移行し、WEリーグ開幕で意識に変化あり

——シーズンを海外に合わせるべく移行し、WEリーグ開幕で意識に変化あり

松原 前期の始めの方は、守備面で自分たちの中で手応えはあつたんです。プレシーズンマッチに比べたら得るものがありました。それが、前期の終盤になって失点が多くなつてしましました。チームの中心にならないといけないのに、直接チームに貢献できないのが悔しかつた。みんな頑張っているのは伝わってきていたので、葛藤しつつも鼓舞していくしかないとずつ思つてました。

——2018年にノジマステラ神奈川相模原に加入了した当初のサイクルはどのようなものだったのでしょうか?

松原 ノジマの店舗勤務だったのでだいたいで、グラウンドの隣にある寮に戻つて昼食後、15時から練習という形です。大学も寮だったので、ノジマの寮はワールドアパート元年、「プロ化」が彼女にもたらしたもの。そしてWEリーグの理想形とは。

——かなり恵まれた環境ですね。

松原 疲れはしましたが、午前中は仕事、午後はサッカーと割り振っていたのでバランスは取りやすかったです。練習が夕方からのチームもある中で、私たちはその時間には終わつて自分の時間になつていますから。

——そういう環境にあったノジマでプロ化へ向けていた松原選手にとっては、プロ化という話が出たときは複雑な気持ちもあったのではな

いですか?

松原 疲れはしましたが、午前中は仕事、午後はサッカーと割り振っていたのでバランスは取りやすかったです。練習が夕方からのチームもある中で、私たちはその時間には終わつて自分の時間になつていますから。

——そういう環境にあったノジマでプロ化へ向けていた松原選手にとっては、プロ化という話が出たときは複雑な気持ちもあったのではな

いですか?

松原 前期の始めの方は、守備面で自分たちの中で手応えはあつたんです。プレシーズンマッチに比べたら得るものがありました。それが、前期の終盤になって失点が多くなつてしまつた。チームの中心にならないといけないのに、直接チームに貢献できないのが悔しかつた。みんな頑張っているのは伝わってきていたので、葛藤しつつも鼓舞していくしかないとずつ思つてました。

——GKの久野吹雪選手が「松原選手と大賀理紗選手の2センターへの信頼が絶大」と言つてました。その可能性をさらに広げようとしていたからこそ、なおさらですね。

松原 そうなんです。理紗子とはバランスが取れて……! 本人が(笑)。

大賀 こんなにちは~。

松原 ちようど大賀さんと組んでどう? といふ話をしていたところです(笑)。

大賀 バランスいいよね。

松原 同じこと言つてる(笑)。多分、相性がいいんだと思います。「自分、前行くんで裏のケアお願いします」とつ感じです。

大賀 そうそう! あ、お邪魔しました。

——この数秒で抜群の相性だということがわかります(笑)。

松原 そうなんですよ、不思議なことに、初めて組んだ気がしない。自分が苦手なカバーが彼女は上手なんです。自分は前に出るぶつかるのは得意なので、自分が潰しに行つて理紗子がカバーっていうのは一つの強みだと感じます。やっぱり後ろは無失点で行かないといけない。なかなか攻撃面では得点が生まれていませんけど、失点をしなければ負けはない。何はともあれ、結果を出さないと自分たちの試合の集客にも響きます。

——観客数つて気になりますか?



©Noriko Hayakusa



©Noriko Hayakusa

—ぜひ、考えていることを教えてください。
松原 先日、小学校で夢授業というのをやったんです。その時の子供たちを前期最終戦に招待しようとして準備していたんですけど、試合が延期になつてしましました……。仕切り直ですね。

—ピッチ上ではプロとしての“違い”を意識しているように見えます。WEリーグ開幕以前と以降で、違いを感じることはありますか？

松原 全体的にプレーの強度とかスピードは上がっていると思います。ノジマにも外国籍の選手たちが加入し、規格外のフィジカルだつたり、予想外のプレーも出てきたりします。それを練習で常に体感できるので、本当に自分がついてもプラスしかない。やっぱりもう一度世界で戦いたいので、日ごろから外国人選手と対人が出来るっていうのはありがたいです。

—そういう意識の変化が、プレーにも確実に出てきていることは感じます。

松原 やっぱり女子はアマチュア、男子はプロっていう認識があって、それが同等にまではいかないですけど、一プロ選手として見られる。その分責任と覚悟が必要ですけど、そういう意識の変化が日本の女子サッカーがヨーロッパでいう認識があつて、それが今まで見られないで、一プロ選手として見られる。その分責任と覚悟が必要ですけど、それが日本に近づける一歩だと思います。もちろん技術的にレベルアップすることは必要で、開催時期を世界と揃えることで海外の選手も日本に来やすくなる。この流れも日本の女子サッカーにとっては大事だと思います。

—海外の選手の来日を望むのは、なでしこジャパンとして戦った経験からですか？

じ取れないものもあると私は思っています。あと、ノジマはスタジアムグルメが充実しているんですよ！ めちゃくちや美味しいんです。前はお好み焼き屋さんと一緒に考案した“まつん焼き”をキッチンカーで販売してたんですね。美味しかったので、もう一回出してもらえるように頼んでみようかな（笑）。スタジアムにはサッカー観戦以外の楽しみもあるので、ぜひお越しください！



Player Interview
Arisa Matsubara

©Noriko Hayakusa

松原有沙(まつばら ありさ)
1995年5月1日生まれ。北海道出身。大商学園高等学校 - 早稲田大学。高校時代にリトルなでしこに選出され、2012 FIFA U-17女子ワールドカップ(アゼルバイジャン)に出場。大学では全日本大学女子サッカー選手権大会を3連覇。2018年ノジマステラ神奈川相模原に加入し、2019年敵地でのアメリカ戦でなでしこジャパンにデビューした。



OM SYSTEM OM-1

OLYMPUS

唯一無二、新しい世界へ。

眼前に広がる絶景に、ただ息を飲む。
雲海が地上を隠し、その向こうで輝く地平線が一日のはじまりを告げる。
その束の間に生まれる美しい朝焼け。
シャッターチャンス、それはまさしく今だ。
膨大な時間をかけて辿り着き、理解したことがある。
決定的瞬間との出会いに偶然は存在しないことを。
果敢に挑む先にしか掴めない情景があることを。
OM SYSTEM OM-1はその熱情に呼応する。
フォトグラファーは常に新しい写真世界を模索し続ける。
ならば、カメラは一番近くでこの探究心に寄り添い、
共に挑み続ける無二の存在でなくてはならない。
真のクリエイティブを叶えるにふさわしいすべての要素が、
このカメラには詰まっている。
歩を進めるその先に、どんな世界が広がっているのか見てみたい。
OM SYSTEM OM-1とだったら行ける。どこまでも突き進める。

— 前期を終えて、WEリーグというものをどう受け止め、どう発展させていきたいと思いますか？

松原 プロリーグが出来たからOKじゃなくて、今の子供たちが夢見る舞台にしていくたいというのは選手みんなが思っていることだと思います。でもそれを具体的にどうしたらいいのかというのはなかなか……難しいです。

— これまでノジマは地域でいろんなイベ

盛り上げたい

— 前期を終えて、WEリーグというものをどう受け止め、どう発展させていきたいと思いますか？

松原 本当に私にとってはここからが開幕という感覚です。今はありがたいことにDAZNでWEリーグを見ることが出来ますよね。でも状況が許せば、ぜひスタジアムに来ていただきたい！ 選手一人一人が戦う姿勢、熱意っていうのはスタジアムでしか感

—— 3月から日程は後期に入ります。ようやく松原選手も本格参戦できますね。

松原 本当に私にとってはここからが開幕という感覚です。今はありがたいことにDAZNでWEリーグを見ることが出来ますよね。でも状況が許せば、ぜひスタジアムに来ていただきたい！ 選手一人一人が戦う姿勢、熱意っていうのはスタジアムでしか感

松原 気にするようになりました。来てもらつたために何か自分に出来ることはないかなって考えたりします。

松原 先日、小学校で夢授業というのをやつたんです。その時の子供たちを前期最終戦に招待しようとして準備していたんですけど、試合が延期になつてしましました……。仕切り直ですね。

松原 それは大きいですね。スピードやファジカルの強さが全然違うので、それをなでしこジャパンの選手だけじゃなく、他の選手も経験することでよりレベルアップできるはずで。私はデビュー戦がアメリカ戦だったんですけど、もうホントに足が速くて男子と戦つたり、予想外のフィジカルだつたり、予想外のプレーも出てきたりします。

松原 そこなんですよね！ これまでチーントを開催してきました。こういうことをしてみたいというのを選手で話したりするんですか？

松原 そこなんですよね！ これまでチーントが整えてくれて、そこに参加するという形だつんですけど、やっぱり選手登録でやっているみたいでした。フィジカルもちょっと当たりに行つてもピクともしないで、こんなに違うと思うんですね。

松原 いきなり世界1位とのデビュー戦。緊張していたように見えましたが（笑）。

松原 はい、緊張でガッちがちでした（笑）。その中でも、意外と空中戦は戦えた実感がありました。ボランチで入つてたんですけど、身長的には自分も日本では高い方ですし、そこだけは負けたくないと思っていました。ヨーロッパで競ることが多かつたんですけど、勝てる部分もあったから、ここは自分の強みにしていきたいと思うきっかけになりました。

松原 ああいう感覚をWEリーグで体感できるといいですね。

松原 そう思います。社会状況的に難しくはあるんですけど、このリーグを残していくためには、今、リーグに所属している自分たちがどう行動していくかで今後が変わってくる。運営とかリーグの力だけじゃなくて、みんなが協力し合わないと出来ない。一度、WEリーグの企画でアルビレックス新潟レディースの上尾野辺（めぐみ）選手とイベントをしたことがあって、ああいうチームの枠を超えて何かが出来るといいですね。すごく一体感が出ると思います。

松原 本当に私にとってはここからが開幕という感覚です。今はありがたいことにDAZNでWEリーグを見ることが出来ますよね。でも状況が許せば、ぜひスタジアムに来ていただきたい！ 選手一人一人が戦う姿勢、熱意っていうのはスタジアムでしか感

箱根駅伝に魅せられて

文／生島淳
写真／松尾憲一郎

小学生のときにラジオで箱根駅伝に触れ、スポーツを書く世界に飛び込んでから

将来の日本を背負って立つ選手、このレースを最後に引退する選手……
青山学院大の優勝で幕を閉じた第98回箱根駅伝も、いろいろな思いを持った学生たちがたすきをつけた。



大会史上最速の10時間43分42秒で総合優勝した青山学院大学。中倉啓敦(10区)が大手町を駆ける

風向きを変えた一冊の本

箱根駅伝を取材している限り、家族と一緒にのんびりと過ごすお正月は迎えられない。

私の人生のなかで「箱根駅伝」の持つ意味は大きく変化してきた。はじめて箱根を「聴いた」のは小学校4年生の時だから、1978年のことである。日本テレビが箱根の生中継を始めたのは1987年のことで、それまではNHKラジオ第1でレースを聞くのが楽しみだった。1978年の目当ては、ひと月前の福岡国際マラソンで5位に入った早稲田大学の瀬古利彦だった。

そのラジオにしても、完全実況ではなくたが(1区は生中継で、そのあとは1時間ごとにレポートが入り、5区になると再び実況に戻るスタイル)、音だけの箱根は小学生の私の想像力を広げてくれた。

そして大会終了後は『月刊陸上競技』と『陸上競技マガジン』を比べ、より興味深い記事が載っている方をお年玉で買っていた。つまり、小学生の私にとって箱根駅伝は憧憬の対象であり、大学選びにも大いに影響した。

長じて

スポーツを書く世界に飛び込んでから、箱根駅伝について書く機会はなかなか訪れなかつた。2000年代は、いまほど箱根

駅伝が全国的に注目されるコンテンツだとうわけではなかつたからだ。ただ、2005年に『駅伝がマラソンをダメにした』(光文社)という本を出してから風向きが変わつた。この本は、駅伝とマラソンを両立させていた瀬古利彦に憧れていた私にとって、1990年代以降、なぜ両立を志す選手、指導者がいなくなつたのか? という疑問をそのままぶつけた本だつた。取材は一切なし。小学生の時からの記憶と現状を外から眺めて分析したもので、陸上を書いて暮らしていなかった。駒澤大の大八木弘明監督に取材を行つた時には、「生島さん、読んだよ」と言つたので怒られるかと思ったが、「ご批判はもつとも、ただ、駒澤は世界を目指してやつてるから、それは見て欲しいな」と言われた。ありがたいことに、監督たちが私を受け入れてくれたことで、毎年のように箱根駅伝を取材する生活が始まつた。

驚くべき 青学大の表現力

私にとって大きな刺激となつたのは、青山学院大だつた。2011年に書いた『箱根駅伝』(幻冬舎新書)を部員が読んでくれ、當時流行り出したツイッターに感想を上げてくれていた。こんな調子だつた。

「監督が、書いていることの8割は当たつているけど、2割は違うなどのこと」監督とは、原監督のことだ。では、2割はどこが違うのかと気になり、取材を申し込むとあつさりと応じてくれ、そこから青学大との付き合いが始まつた。



2区・手島駿(中央大)の視線を尻目に追い抜く田澤廉(駒澤大)



3区・太田蒼生から4区・飯田貴之へ(青山学院大)



往路は読売本社前をスタート



3区の丹所健(東京国際大)は日本人最高記録で区間賞に



1区は吉居大和(中央大)が引っ張った

一ムだ。2022年大会では10時間43分42秒の大会新記録をマークし、その進化形態を見せた青学大だが、このチームには変わらないことがある。

表現力だ。

「ナントカ力」に代表されるような原監督のコメント力だけではなく、選手たちも1年生の時からしっかりと受け答えが出来るので、話を聞いていて楽しい。これは部の風土もさることながら、そうした選手を選んでリクルートしていると原監督はいう。

高校の県大会、ブロック大会に勧誘に行くじゃないですか。そこで選手と実際に話してみると、だいたいの性格、人間力が分かります。これはひと昔前の話だけれど、超名門校に行ったら、やたらと返事がいいわけ。「ハイ、ハイ」って、なにを聞いてもハイって返事をするから、『どうしてハイって返事をしてるの?』と聞いても、「ハイ」って言ってきたからね(笑)。青学では、上の言うことに対しても素直に返事をする学生は要らない。そういう選手が入ったとしても、苦労するだけです」これも原監督の経験値から導き出されたものらしい。就任当初、箱根に出るのを焦るあ

まり、性格やキャラクターは度外視して、タイムを重視して勧誘を行っていた。ところが、得てしてそうした選手は部の雰囲気を乱して、話を聞いていて楽しい。これは部の風土もさることながら、そうした選手を選んでリクルートしていると原監督はいう。

「ナントカ力」に代表されるような原監督のコメント力だけではなく、選手たちも1年生の時からしっかりと受け答えが出来るので、話を聞いていて楽しい。これは部の風土もさることながら、そうした選手を選んでリクルートしていると原監督はいう。

高校の県大会、ブロック大会に勧誘に行くじゃないですか。そこで選手と実際に話してみると、だいたいの性格、人間力が分かります。これはひと昔前の話だけれど、超名門校に行ったら、やたらと返事がいいわけ。「ハイ、ハイ」って、なにを聞いてもハイって返事をするから、『どうしてハイって返事をしてるの?』と聞いても、「ハイ」って言ってきたからね(笑)。青学では、上の言うことに対しても素直に返事をする学生は要らない。そういう選手が入ったとしても、苦労するだけです」これも原監督の経験値から導き出されたものらしい。就任当初、箱根に出るのを焦るあ

まり、性格やキャラクターは度外視して、タイムを重視して勧誘を行っていた。ところが、得てしてそうした選手は部の雰囲気を乱して、話を聞いていて楽しい。これは部の風土もさることながら、そうした選手を選んでリクルートしていると原監督はいう。

「ナントカ力」に代表されるような原監督のコメント力だけではなく、選手たちも1年生の時からしっかりと受け答えが出来るので、話を聞いていて楽しい。これは部の風土もさることながら、そうした選手を選んでリクルートしていると原監督はいう。

高校の県大会、ブロック大会に勧誘に行くじゃないですか。そこで選手と実際に話してみると、だいたいの性格、人間力が分かります。これはひと昔前の話だけれど、超名門校に行ったら、やたらと返事がいいわけ。「ハイ、ハイ」って、なにを聞いてもハイって返事をするから、『どうしてハイって返事をしてるの?』と聞いても、「ハイ」って言ってきたからね(笑)。青学では、上の言うことに対しても素直に返事をする学生は要らない。そういう選手が入ったとしても、苦労するだけです」これも原監督の経験値から導き出されたものらしい。就任当初、箱根に出るのを焦るあ

まり、性格やキャラクターは度外視して、タイムを重視して勧誘を行っていた。ところが、得てしてそうした選手は部の雰囲気を乱して、話を聞いていて楽しい。これは部の風土もさることながら、そうした選手を選んでリクルートしていると原監督はいう。

「ナントカ力」に代表されるような原監督のコメント力だけではなく、選手たちも1年生の時からしっかりと受け答えが出来るので、話を聞いていて楽しい。これは部の風土もさることながら、そうした選手を選んでリクルートしていると原監督はいう。

高校の県大会、ブロック大会に勧誘に行くじゃないですか。そこで選手と実際に話してみると、だいたいの性格、人間力が分かります。これはひと昔前の話だけれど、超名門校に行ったら、やたらと返事がいいわけ。「ハイ、ハイ」って、なにを聞いてもハイって返事をするから、『どうしてハイって返事をしてるの?』と聞いても、「ハイ」って言てきたからね(笑)。青学では、上の言うことに対しても素直に返事をする学生は要らない。そういう選手が入ったとしても、苦労するだけです」これも原監督の経験値から導き出されたものらしい。就任当初、箱根に出るのを焦るあ

まり、性格やキャラクターは度外視して、タイムを重視して勧誘を行っていた。ところが、得てしてそうした選手は部の雰囲気を乱して、話を聞いていて楽しい。これは部の風土もさることながら、そうした選手を選んでリクルートしていると原監督はいう。

「ナントカ力」に代表されるような原監督のコメント力だけではなく、選手たちも1年生の時からしっかりと受け答えが出来るので、話を聞いていて楽しい。これは部の風土もさることながら、そうした選手を選んでリクルートしていると原監督はいう。

高校の県大会、ブロック大会に勧誘に行くじゃないですか。そこで選手と実際に話してみると、だいたいの性格、人間力が分かります。これはひと昔前の話だけれど、超名門校に行ったら、やたらと返事がいいわけ。「ハイ、ハイ」って、なにを聞いてもハイって返事をするから、『どうしてハイって返事をしてるの?』と聞いても、「ハイ」って言てきたからね(笑)。青学では、上の言うことに対しても素直に返事をする学生は要らない。そういう選手が入ったとしても、苦労するだけです」これも原監督の経験値から導き出されたものらしい。就任当初、箱根に出るのを焦るあ

エリート選手たちだけではなく……

箱根駅伝はチームの「総合力」を問う大会である。青学大は10人どころか、上位20人まで寸分の隙もないチームを作り上げた。それでも、歴史を紐解いてみると、本当に懸念をかけられる「エース」の存在が、流れや勝負の行方を左右することがあった。

いま、箱根には将来の日本を背負つて立つ選手がいる。

東京オリンピックの30000m障害で7位入賞という快挙を成し遂げた三浦龍司(順天堂大)は、今回花の2区を走った。そしてその2区で留学生を抑え、区间賞を取ったのは田澤廉(駒澤大)だった。田澤は12月の日体大記録会の10000mで、今年7月にアメリカ・オレゴンで行われる世界陸上の参加標準記録を突破した。その後、大八木監督が話していた。

「俺も、オレゴン行きでえんだよ」

箱根で勝つことだけでなく、世界でも勝負できる選手を育てる。2000年代、箱根駅伝と世界は断絶しているように見えたが、いま「箱根から世界へ」という大会のコンセプトは、現実のものとなっている。

箱根駅伝を取り材する身としては、どうしてもそうしたエリート選手たちに目を奪われがちだが、私が箱根駅伝を好きなのは、このレースを最後に引退する選手たちにもまた、ストーリーがあるからだ。

今大会、10年ぶりにシード権を獲得した中央大学の2区を走った手島駿も、そのうちのひとりだ。

手島は11月に行われた全日本大学駅伝でアンカーを務め、この大会でのシード権獲得に大いに貢献した。マラソンの日本代表でもあった藤原正和監督は手島の安定性を評価し、箱根では「汚れ役」を託すことにした。藤原

監督はその意図をこう話してくれた。

「中大としては、1区で吉居（大和・2020年日本選手権5000m3位）で揺さぶりをかけにいきます。吉居は区間上位でまとめてくれるはずなので、2区は“耐える”区間になります。それを頼めるのは手島しかいないと思いました」

実際のレースでは吉居が区間新を大幅に更新してトップでたすきをつないだ。藤原監督のプラン通りだ。果たして、2区ではどうなったか？ 手島は順位を11位に落としたが、本人はレースをこう振り返る。

「抜かれるのは覚悟していました。自分の10kmの通過タイムは29分10秒くらいだったので、自分のキャリア的には相当速いタイムで通過しているんです。でも駒大の田澤君には8km地点で抜かれてしまい、『どれだけ速いんだ？』とびっくりしました。東京国際大のヴィンセント君、青学大の近藤幸太郎君、みんな速かったです。見栄えは悪かったかもしれません、自分としては役割を果たして3区につながたので良かったと思います」

手島の粘りが、名門中大のシード権復活に寄与したのは間違いない。

中大を卒業する手島は、一般企業に就職するので競技の第一線からは離れる。箱根駅伝が終わってからは埼玉の実家に帰り、のんびり暮らしているという。

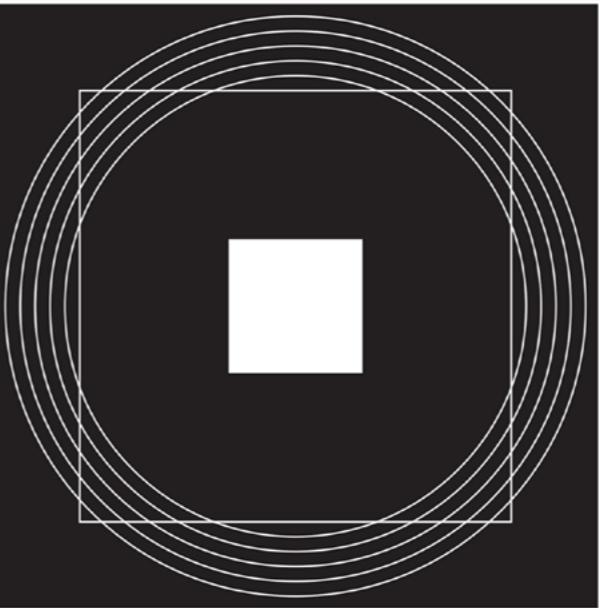
「大会が終わってから、一度しか走ってなくて。あ、自分は走るのが好きじゃないんだな」と気づきました（笑）

いろいろな思いを持った学生が、たすきをつなぐ箱根駅伝。小学校の時にラジオで聴いて感じていた熱を、いま取材の現場で感じるようになつた。

正月がめぐつてくるたび、そのありがたさを実感している。



15年ぶりに1区の記録を塗り替えた吉居大和(中央大)



ATHLETE Studio

「ATHLETE Studio 神田」

<https://www.athletestudio.org/>



試される人間力

AJPS代表 赤木真二

一昨年5月、コロナ禍の緊急事態宣言下で全ての競技が中止された時「スポーツ報道」の意味を考え直さざるを得ませんでした。当たり前だった競技そのものが行われない状態で、無力感をおぼえたジャーナリストは少なくなかったと思います。

昨年夏、同じコロナ禍で一年延期されたオリンピック、パラリンピックが開催されました。その報道の現場に立ち会えた人も、その報道をモニター越しに凝視した人もこの巨大競技会の影響力を再確認した「機会」になったのではないでしょうか。

我々AJPS会員はフリーランスが主体です。巨大競技会への報道者としてのアプロ

ーチは狭き門をくぐる状態で長年推移していました。東京大会でもその状態に変化はなく、173名の会員の中AD取得フォトグラファー26名、記者6名という数字がフリーランスの我が国における立場を物語っています。

その現状はともかくとして、今回のオリンピック、パラリンピック東京大会では運営サイドで競技会場の「プレスオフィサー」に従事した会員がいたことを記しておきます。

5会場（野球／ソフトボール、卓球、ハンドボール、体操、スポーツクライミング）でのプレス対応は、常日頃自分がフォトグラファーとして仕事をする上で相対する運営側の立場に立つ、ということを意味します。

報道者が取材に専念して仕事ができる=運営側がその舞台を用意して準備・運営す

る、ということです。巨大競技会に於いては、その舞台と準備に膨大な時間とマンパワーが必要で、更に期間中のアップデートもしなければなりません。「プレスオフィサー」の奮闘無くして、競技会場の高品質な報道環境はない、と断言できます。大会後彼らに聞いた感想は異口同音、その多忙さでした。

コロナ禍でも、そうでなくても、競技会の大小に関わらず同様の関係は存在します。報道者として日々活動する我々に、運営側の事情を理解する機会が与えられた、と思えるのであれば、この二年間抱えているお互いの気苦労の中に小さな希望の光が見えた、と言えるのかもしれません。コロナ禍3年目、試される人間力。柔軟に更新し続ける思考がポストコロナには求められています。

世界最高のローリングケース



エアポート セキュリティ V3.0

600mm F4を収納可能

¥61,600 (税込)

レンズを取り付けたグリップ付一眼レフ2台と、レンズを4-6本程度収納可能です。最大収納レンズは600mm F4、もしくは500mm F4です。

外寸：H55.9 × W35.6 × D22.9cm
重量：5.8kg(全オプション装着時)



エアポート インターナショナル V3.0

最も信頼、支持されているローリングケース

¥55,000 (税込)

国際線手荷物基準に適しています。グリップ付一眼レフ2台とレンズ2-4本が収納できます。最大収納レンズは500mm F4です。

外寸：H53.3 × W35.6 × D20.3cm
重量：5.2kg(全オプション装着時)



エアポート ローラー ダービー

4輪ホイールによる安定した移動

¥61,600 (税込)

400mm F2.8のレンズ、レンズを装着したグリップ付一眼レフ1台と中型一眼レフ1台が収納できます。

外寸：H55.9 × W35.6 × D22.9cm
重量：5.2kg(全オプション装着時)



©Noriko Hayakusa

AJPSマガジン

2022 vol.38/39

Association
Japonaise de la
Presse
Sportive

編集長 飯塚健司
編集部 飯尾篤史 石井啓祐 小座野容齊 飯塚理恵
デザイン 本多伸二
校正 前田亮
広告 赤木真二 藤田孝夫 竹内里摩子 早草紀子
アドバイザー 乾晋也

印刷 株式会社誠晃印刷

発行人 赤木真二

編集・発行所 一般社団法人
日本スポーツプレス協会(AJPS)
〒112-0013
東京都文京区音羽1-21-10 開根ビル603
TEL: 03-3946-9033
FAX: 03-5981-9606
<https://www.ajps.jp/>

※各原稿は2022年1月31日現在の内容です。
本誌掲載記事・写真を無断で転載することは固くお断り申し上げます。

2022年3月1日発行
定価800円(税込)

1990年代、サッカー専門誌で働いていたときに女子サッカーの担当記者をやっていたことがある。オールスターであるバレンタインサッカーエステイバルに、シーズン終了後の表彰式など、さまざまなイベントを取材した記憶がある。なんとなく女子サッカーが盛り上がりつつあったが、なんとなくのままでシリーグは名称を変えながら、姿がたちを変えながら継続してきた。

20数年のときを経て、2021年にWEリーグが開幕した。本誌では岡島喜久子チエア、

松原有沙選手（ノジマステラ神奈川相模原）

を取り上げている。岡島氏は日本初の女子サッカーチームであるFCジンナンでプレーし

ていた“筋金入り”で、女子選手がどういつ

ると思うことがあるだろうと考えた。

松原選手は社会人選手からプロとなり、キャ

ブテンとしてWEリーグ開幕を迎えたが、早々にケガをしてしまった。だからこそ、いろい

編集後記

文／飯塚健司

た環境でプレーしてきたかよく知っている。

松原選手は社会人選手からプロとなり、キャ

ブテンとしてWEリーグ開幕を迎えたが、早々

にケガをしてしまった。だからこそ、いろい

ろ思うことがあるだろうと考えた。

松原選手は過去に立ち上げられた女子スポーツの国内リーグとは違うので

はないかと感じている。時代の後押しを受け

ているというか、これからの時代をリードす

る存在になるかもしれない。いよいよ、なん

となくでは終わらないのではないか……。よ

り多くの方に、その雰囲気が伝わったことを

願うばかりである。





最高の試合を、最高のソファで。

『快適すぎて動けなくなる魔法のソファ』があれば、我が家がたちまち特等席に。
スポーツ観戦を、Yogiboと一緒に楽しもう。

yogibo



公式オンラインストア <https://yogibo.jp>

お電話でのご注文・お問い合わせ 0120-941-533 (10:00 - 18:00)